

内容解説資料（世B-312）

教科書協会「教科書発行者行動規範」
に則っております。

世界のつながり・現代とのつながりがわかる 知識がつながる世界史教科書

新詳

世界史 B

本書の特色

- 特色1 12か所の新設コラム「現代につながる諸課題」… p.2
- 特色2 経済を軸に同時代のつながりがわかる記述 …… p.4
- 特色3 歴史の流れと全体像をつかみやすい構成 …… p.10
- 特色4 多様な見方を養えるコラム・特設 …… p.16
- 特色5 歴史的思考力を養える課題設定 …… p.20

教科書 p.262-263



▲①ギリシアからのイズミル奪還を喜ぶトルコ人 第一次世界大戦直後に、ギリシアがトルコ本土に侵攻し、ギリシア-トルコ(希土)戦争が起きた(1919~1922年)。ムスタファ=ケマル=パシヤ指導下のトルコ軍は苦心の末にギリシア軍を破り、ナショナリズムにもとづくトルコ共和国の樹立へと向かった。



▲②ムスタファ=ケマル=パシヤ ギリシア軍と連合国がイスタンブル占領をめざした際の攻防戦で戦功をあげ、国民的英雄となった。1934年にアタテュルク(父なるトルコ人)の称号を議会から与えられた。この写真は、文字改革でラテン文字を書くようす。

節のポイント

大戦後のアジアでは、民族自決にもとづくナショナリズム運動が展開する一方、大戦時の特需により民族資本も成長した。

①アジアの民族資本 このころに流入してきた外国資本に対して、自国で発展した土着の資本をさす。例として、綿糸輸出から始まり、綿工業を経て鉄鋼業で財をなしたインドのタタ商会があげられる。

②ギリシア軍の占領 希土戦争時の1919年に、ギリシア軍は小アジア西部の主要都市イズミル(ギリシア語でスミルナ)を占領した。1920年のセーヴル条約ではギリシアがイズミルの領有権を得たが、その後トルコ大国民会議はギリシア軍を敗退させ、イズミルを奪回した。ローザンヌ条約では、トルコのギリシア正教徒住民とギリシアのムスリム住民の住民交換も行われた。

③スルタン制の廃止 オスマン帝国君主は、帝国末期においてスルタン=カリフ(→p.253)としてほかのイスラーム諸国民からも大きな支持を受けていたため、帝国の解体は伝統的なイスラーム世界そのものの没落を象徴した。またカリフはウンマ(→p.80)の統一の象徴であったため、その廃止は大きな衝撃をもたらした。

2 第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開

近代アジアの国家形成と経済発展

アジア諸国は、植民地化するなかで独立闘争を展開し、国民国家をめざしていった。また、従属化の一方で、ネットワークの活性化、民族資本の発展も進んでいった。

19世紀以降、日本や清朝などを除き、アジアの多くの国々が植民地化された。植民地時代には西洋の思想や文物が流入し、多くの地域で西洋化と並んで、ナショナリズム運動がさかんになった。とくに20世紀になって民族自決の思想が世界的に広がると、これらの国々は民族自決権の行使を強く求めるようになり、自由主義・民族主義・人権など西洋思想にもとづく独立闘争が展開した。また、労働運動・農民運動・社会主義運動なども各地に広がった。

他方、アジアは国際的な分業体制に組み込まれて、貧困に向かっただけではなく。中国人やインド人のネットワークは分業体制のなかで活性化した。第一次世界大戦でのヨーロッパの混乱に乗じて各国の民族資本も発展し、アジア内の貿易がさかんになり工業化が進んだ。

オスマン帝国の解体

オスマン帝国が解体し、トルコ共和国が成立するなかで、トルコ社会の脱イスラーム化が進んでいった。また、「民族」という意識が中東で広く認識されるようになった。

同盟国側で第一次世界大戦に参加したオスマン帝国は、敗北後一気に解体へと向かった。戦後のセーヴル条約により領土は分割され、多くの地域がイギリス・フランス・イタリアの支配下に入った。しかし小アジアとヨーロッパ領の一部は、協商国軍に支援されたギリシア軍の占領をはねのけ、帝国はかろうじて独立を維持した。

列強との戦いを指揮したムスタファ=ケマル=パシヤは、アンカラでトルコ大国民会議を樹立した。ケマルは1922年にスルタン制を廃止し、

現代につながる諸語

「国なき民」クルド

クルド人はナショナリズムをもち、現在5か国以上に分布し、後半に各国で民族的な自決権をもちたいと望んでいる。

②クルド人は、クルドスタン、シリア、アルメニアに分布する民族で、人口は現在約300万人。トルコへの忠誠から、トルコ国家形成が遅れ、第一次世界大戦後、自治区が認められたが、国境画定と国民国家形成が阻害され、その後長らく自治を主張して各国に分かれていたことができず、今日でも自治は20世紀前半には実現しなかった。90年代以降は自治の規制が緩和されたが、政治的分離運動が大きな要因となっている。イランでも独立運動が起こったが、達成することはなかった。2003年のイラク戦争でイラクが倒れると(→p.315)一部のクルド人地域は「国なき民」として自治を主張している。

西アジア

諸課題

コラムは、教科書本文の理解を深められる内容となっています。現代の世界で起こっている問題の構造について、歴史事象へ深くふみ込んだ記述から、多角的に理解していただけます。

課題⑩ クルド人の独立運動

ナショナリズムの形成と発展が遅れたため、分かれて少数民族として暮らす。20世紀の要求を強めたが、いまだに独自の国家が、各国で政治の焦点となっている。

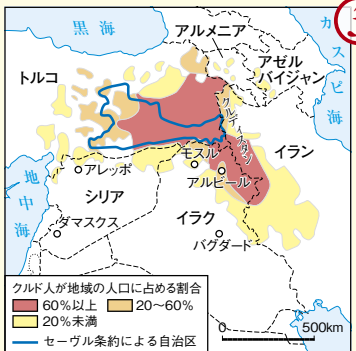
コーカサスとよばれるトルコ、イラク、イメニアなどにまたがる山岳地域に住居する約3000万人と推計される。オスマン帝国の人、アラブ人に比べてナショナリズムの世界大戦後のセーヴル条約ではクルド人目録ローザンヌ条約によるトルコの主体的な形成の動きの中で、自治区の設置は取り消されたとして認知されなかった。少数民族といえるため、統一的な国語(→p.157)を作るでもクルド語は方言差が大きい。トルコでクルド語の使用も認めず、同化政策を推進



▲③ 武装闘争するクルド人兵士(2015年、イラク モスル) クルド人は国家建設をめざして闘争を続けてきた。政治活動を行う勢力がいる一方で、武装闘争を行う勢力もいる。

⑤ クルドの歴史

20世紀初頭	オスマン帝国内の山岳地域で遊牧
1920	セーヴル条約→オスマン領の分割 →クルド人自治認められる
23	ローザンヌ条約、トルコ共和国の成立 →クルド人への同化政策、 公共の場でのクルド語の使用の禁止
60年代	イラクでのクルド人独立運動の隆盛
79	イラン=イスラム革命(→p.310) →イランでのクルド人独立運動
80年代	サダム=フセイン政権下のイラクで クルド人迫害行われる(→p.310)
2003	イラク戦争→北部での自治権獲得
15	トルコ総選挙でクルド人政党が躍進



ローザンヌ条約を結んで、新たな国境の画定、治外法権の回復に成功した。オスマン帝国にかわるトルコ共和国の初代大統領となった。

民族主義・世俗主義などを掲げて、政教分離(脱イスラム)を推進した。1924年にカリフ制を廃止し、西洋型の近代国家の建設(トルコ革命)を推進した。また、アラビア文字からラテン文字へ文字の転換、伝統的服装の廃止と洋服の導入などが行われ、女性解放も推進された。彼の路線は、現代トルコ共和国の建国原理となっている。

ナショナリズムが一般化し、「宗教」より「民族」が重視されるようになった。その結果、現代の中東では、民族の違いによって識別されるようになった。トルコ人はそれぞれに国をもち、いったんは列強の支配下から独立を回復した。ところが、クルド人は、現代でも独自の国家が認められなかった。



▲⑥ 新たな文字を習う女性たち(1930年代) ラテン文字の普及は成人女性にも行われた。それまで女性の識字層は高度な私的教育局を受けた上流層に限られていたが、共和国の建国以降は女子教育がさかに行われるようになった。

西アジア

教科書本文にある国境画定の条約について、クルド人からの視点を記述することで、トルコの国民国家建設がどのような性質をもっていたのか、理解を深められます。(教科書本文、コラム本文赤マーカー部分)

諸課題をとらえる構成

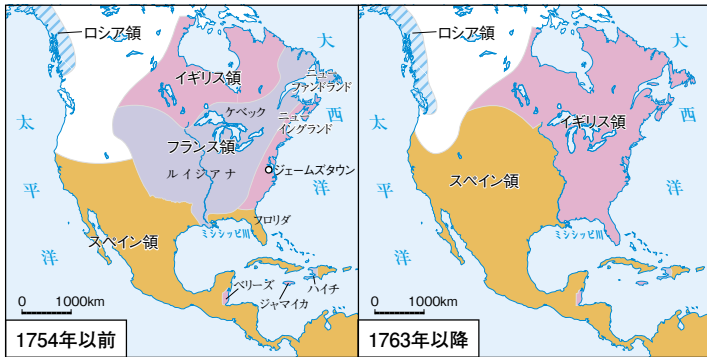
全コラムを同じ構成で展開しており、効果的に諸課題を理解していただけます。

- ① **ダイジェスト文**：現代の世界で何が問題となっているか、端的に解説していただきます。
- ② **コラム本文**：問題の背景と現在までの経緯を詳しく解説しています。
- ③ **地図・年表**：諸課題の要点や経緯を視覚的に理解できます。

全12か所掲載

多様な地域・時代から諸課題を選定。紛争や政治問題のほか、格差や差別など社会問題も取り上げています。

① チベット・ウイグル問題	133
② 東南アジア大陸部の政治地図	137
③ イギリスからの独立をめざすスコットランド	167
④ ロシアによるクリミア編入	204
⑤ アフガニスタン問題	216
⑥ イギリス統治とカースト社会の強化	219
⑦ 模索する台湾	228
⑧ 旧宗主国によるアフリカへの軍事介入	242
⑨ オセアニアの先住民	243
⑩ 「国なき民」クルド人の独立運動	263
⑪ 今なお残る黒人差別問題	301
⑫ 中東の政治体制とそれを取り巻く国際関係	305



▲①証券取引所でバブルにこだる人々 イギリスでは、ラテンアメリカとの貿易を行うはずの南海会社株を中心に、株のブームが過熱し「バブル」を引き起こした。しかし株価は1720年に突然下落し、南海会社は破綻した。

■政府のかわりをする東インド会社 各国の東インド会社は、国王の特許状によって貿易をする権利だけでなく、条約を結ぶことや、軍力をもって戦争をすることなど、国家権力を代行する権限を認められていた。

社会をみる

財政革命と財政軍事国家

中世以来、国王の個人的な支出と国家の財政は必ずしも明確に区分されていなかったため、国債の信用は国王財政に左右されていた。しかしイギリスでは、イングランド銀行が国債を引き受けたことで、国債の信用を高め、国内外からの投資を安全なものとしたため、多くの資金が集まることになった。こうした資金を軍事費にあてることで、イギリスはフランスとの戦争を有利に進めた。こうした当時のイギリスの体制を「財政軍事国家」とよぶこともある。

Let's Try

第2次英仏百年戦争をめぐるヨーロッパ諸国の変化をまとめてみよう。

▲②北米での勢力争い パリ条約により、北米のフランス領がいったん消滅した。ミシシッピ川以西のルイジアナはスペインに譲渡されたが、1800年にフランスに返還された。

イギリス東インド会社軍が、1757年に**プラッシーの戦い**でフランスとベンガル太守の連合軍を破り、イギリスの優位が確立した。

イギリスの財政制度の整備

名誉革命後、イギリスでは財政制度や金融の市場が整った。このため、政府が容易に戦争の費用を集められるようになり、あいつぐ対仏戦争で優位にたつた。

イギリスでは名誉革命ののち、1694年に**イングランド銀行**が創設され、議会の承認を得て政府が発行する借用証書(国債)を引き受け、これが金融市場で取り引きされるようになった(財政革命)。

議会政治が確立し、**徴税の権利をもつ議会が元利を保証していたイギリス国債の信用は高かった**。そのため、17世紀の最富裕国であったオランダでは、豊かな資金をもっていた人々が、イギリスの国債を買い、オランダの資金がイギリスに流れることになった。

イギリスが、あいつぐフランスとの戦争に勝利したのは、この財政革命によって、**フランスより戦争の費用を集める能力が高まったためであった**。大量の国債を発行したイギリス政府は、国民には、重い税を課すことにもなった。それでも、フランスとの戦争に次々と勝利し、植民地を拡大していったので、議会が承認した税に対しては、国民の不満は爆発しなかった。

覇権争いの各国への影響

覇権争いは、ヨーロッパ各国に財政問題を引き起こし、国家体制を見直させていった。

第2次英仏百年戦争のなかの七年戦争は、当時としては大戦争であった。このため、戦勝国のイギリスを含めて、**参戦国はいずれも深刻な財政危機に見舞われることになった**。植民地に負担を分担させようとしたイギリスやスペインでは、白人の定住者による独立運動が起こり(アメリカ独立戦争・ラテンアメリカの独立)、**帝国の再編をせざるをえなくなった**。また、多くの植民地を失ったフランスでは、本国の財政が危機的な状況となり、フランス革命の引き金となった。

スペイン
フランス

七年

財政

植民地への課税強化

財政改革の失敗

ラテンアメリカ諸国の独立

フランス革命

経済の視点からイギリスがフランス競争に勝利できた

植民地界経済のことで、独景がわか

同時代的に知

西欧諸国では植政危機に陥ったこわせようとした結ながつたことを、リンクさせて学習 ← 西欧共通の動き → イギリ

① 本文記述

本文は、**経済の視点を充実**させ、同時代的に世界史がわかる記述となっています。異なる地域の動きが繋がっていることがわかり、知識がつながる、世界史を学ぶ面白さを感じられます。

教科書 p.185

18世紀

イギリスとその植民地アメリカの記述箇所

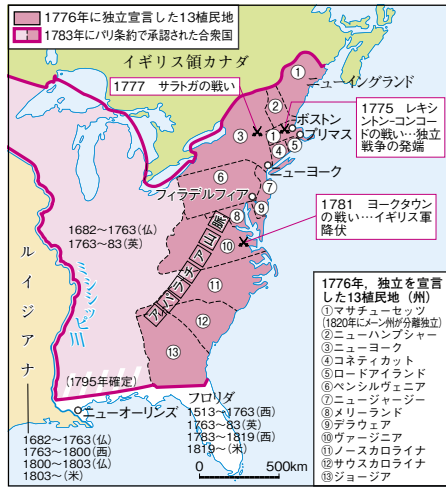
オランダ
ドイツ
イギリス

戦争

危機

植民地への課税強化

アメリカ独立戦争
インドの植民地化の進行
環大西洋革命



▲②**ボストン茶会事件** 先住民に変装した入植者たちの一団が、茶法に反対して、東インド会社の船を襲い、積み荷の茶を投棄した。この事件で、本国との決裂は決定的となった。

▲①**13植民地とその独立**

② アメリカの独立

植民地の経済状態とイギリスへの不満

北アメリカのイギリス領植民地では、七年戦争後の植民地への課税をきっかけに反英感情が高まった。

5 イギリス領北アメリカに成立した**13植民地**では、南北で経済的な違いがあった。ヴァージニアなど南部の植民地は、タバコや綿花などを**奴隷制プランテーション**で生産し、イギリスに輸出していた。これらの地域は、イギリスとの結びつきが強かった。

一方、世界市場に売り出す商品作物がなく、おもに自営農民によって構成されていた北部のニューイングランドでは、**自立性が高まっていた**。したがってこの地域では、航海法などの本国の**重商主義政策**によって植民地の商工業が抑圧され、本国からの製品や茶などのアジアの商品が大量にもち込まれることに不満が強かった。

ところが、七年戦争で大きな財政赤字を背負った本国政府は、戦後の軍事費を植民地に負担させようとして、1765年、植民地での商取引引きや新聞などに課税する**印紙法**を制定した。植民地側は、「**代表なくして課税なし**」を合い言葉として抵抗し、この法を撤回させた。しかし本国は、1767年から、再び植民地の茶などに課税する法律を強制した。植民地側は、これにもイギリス商品の不買運動をもって対抗した。

15 本国政府はまた、財政難にあった東インド会社に、植民地への茶輸出の独占権を与えた(**茶法**)。これに憤慨した植民地の人々は、東インド会社の船を襲撃して積み荷の茶を投棄した(**ボストン茶会事件**)。1774年には、フィラデルフィアで**第1回大陸会議**が開かれ、本国との通商断絶が決議された。

七年戦争で財政の悪化したイギリス政府は、アメリカ植民地に新たな税を課した。植民地側はこれに反発し、ついに独立戦争が始まり、アメリカ合衆国が成立した。

14 **北米13植民地** イギリス領北米植民地には、総督と植民地議会の議員を住民が選挙する自治植民地のほか、領主植民地や王領植民地など、さまざまな政治形態があった。これらの植民地にイギリスから移住した人々の中には、自由を求めたピューリタン(→p.168)もいたが、多くは、生活の立て直しを求めたイギリスの貧しい人々であった。



▲③**イギリスが課税に使用した収入印紙** イギリスは北米植民地で作られた公文書や印刷物に、このような印をほどこした紙を貼ることを義務づけて、課税した。

記述することで、**スとの植民地獲得背景**がわかります。

アメリカの状況を世視点から記述すること**立運動**が起こった背景ります。

識をつなげる記述

植民地獲得戦争により財と、植民地に負担を負果、植民地の独立について**概要と具体的な事象**をできます。

スの具体的なできごと

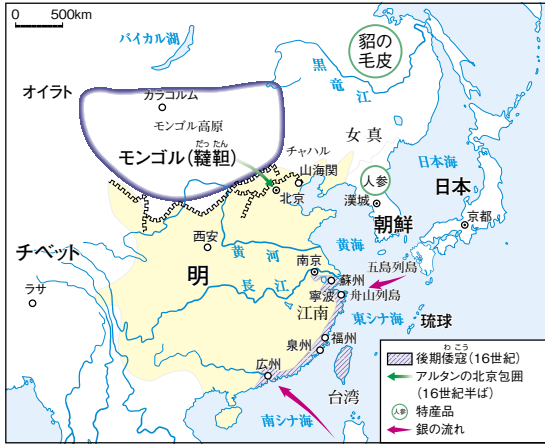
節のポイント

ヨーロッパ
アメリカ



▲⑤倭寇 明の海禁政策を破って私貿易を行う武装海商たちで、後期倭寇は、中国東南沿海部の人々が多く加わり、本拠地は福建・浙江南部から日本の九州西部にかけての地域に広がっていた。

▶⑥「北虜南倭」の明(16世紀)



▲①17世紀初めの鄭氏一族とポルトガルの東インド貿易

族は地域の指導的立場となり、郷紳とよばれるようになったが、大規模経営が全面的に展開することはなく、農村での生産の主役は、副業として家族経営で商工業を行う小農民であった。

學術・思想・文化の面でも、16世紀以降、急速な展開がみられた。江南地方の都市では木版印刷による出版活動や大衆芸能がさかんになり、「四大奇書」などの小説が広く読まれた。経済の発展で生活水準も向上し、庶民の衣類は麻から保温性にすぐれる綿にかわり、茶の飲用や陶磁器の使用も一般化した。思想面でも、科挙試験のための学問となって形式化した朱子学への批判の動きが現れ、王守仁(王陽明)が説いた陽明学は、個人の心情を重んじ実践を重視して人々の心をとらえた。また、科学技術への関心が高まり、農学・産業技術・天文学など多くの分野で実用書があらわされた。イエズス会をはじめとするキリスト教宣教師が来航し、天文学・暦学・地理学・数学・砲術など、ヨーロッパの科学技術をもたらしたことも、それらの著作に影響を与えた。

社会をみる

近世の中国社会

宋代以降の中国では、科挙合格は難しいうえに特権は一代限りだったので、世襲的な大地主や地主貴族は生まれず、人々が能力や経済力に応じて科挙受験・商業・土地経営や出稼ぎ、小作などを選択する流動的な社会であった。地主の経営もあちこちで個別に小作農(佃戸)と契約している場合が多く、一か所で大人数を使役するような大規模経営はみられなかった。

②陽明学の思想 朱子学も陽明学も、人間には誰でも人としてあるべき道徳(理)が生来備わっているとすることで共通している。朱子学では学問や修養に励むことでそれに到達できるとするが、陽明学は、人には本来、理が備わっているのだからその心の実践すること(知行合一)を説いた。

③北虜南倭 北のモンゴルと南の倭寇の活動はたんなる略奪行動ではなく、国際貿易の主導権をめぐる抗争であった。明では両者を「北虜南倭」(虜は敵という意味)とよんだ。

16世紀の経済活況と政治・社会変動

国際貿易が活発化すると、規制を打破して貿易を行おうとする動きが内陸部・沿海部でさかんになり、軍事と商業が結びついた強力な新興勢力が各地で形成された。

16世紀に国際貿易がさかんになると、明の国縁部では、規制を破って貿易の利益を得ようとする動きが活発化した。北方からはモンゴルのアルタンが侵入を繰り返し、南方では海禁を破って海上での私貿易や海賊活動が再び激化した(後期倭寇)。これら明の貿易統制に対抗する動きは1550年代に頂点に達し、対応を迫られた明は、1570年前後について政策を転換した。南方では海禁をゆるめて日本以外との民間貿易(互市)を認め、北方でもアルタンと講和して貿易に応じた。

このような貿易の活発化によって政府の統制が崩れると、利益を求めて競争も激化し、そのなかから軍事と商業が結びついた強力な新興

世界史の中の日本

東南アジアの朱印船貿易のマンラ(フィリピン)アン(ベトナム)などの日本町がだけでなく浪人放されたカトリックも活躍した。アユタヤの長であった山内貿易のかたわらに在りて軍事面功績によって最得たが、政権争た。

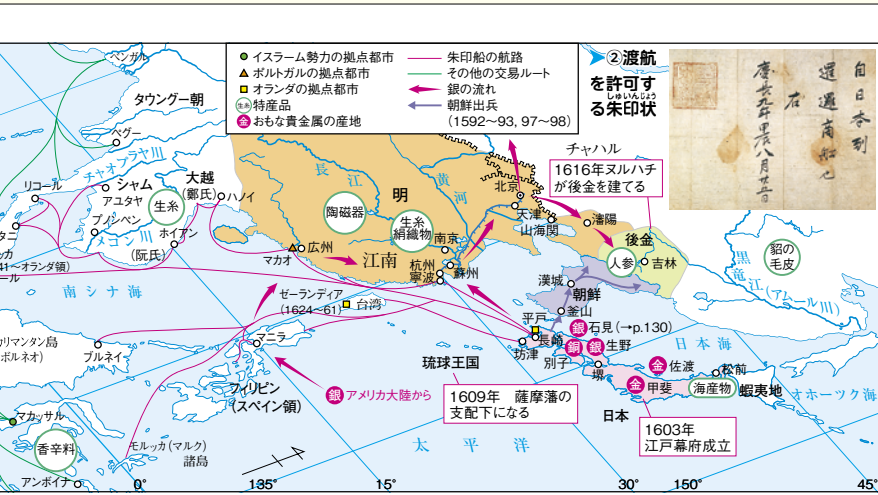
東アジア
東アジア
日本

①東林派と党争 開いた東林書院明の郷紳たちをた。宦官と結んだ争は、明の滅亡後

②朝鮮出兵 日本長の役、朝鮮では倭乱という。日本撃したが、李舜臣の援軍の反撃で明の死によって撤兵

①本文記述

例えば明・清時代では、中国だけではなく東南アジアや日本、北方も含めて記述しています。これにより各地域の相互作用がわかります。



東アジア交易 毛皮・人参貿易をにぎる後金と銀銅を豊富にもつ豊臣・徳川政権が勢力を確立し、海上ではポルトガル・オランダなどが貿易を競った。明と直接貿易できない日本も、朱印船を派遣して中継貿易を行った。

日本人

時代には、(モン)・ホイ・アユタヤ 栄え、商人や日本を追って、プロテスタント教徒が日本町を築いた。豊臣長政は、日本人部隊で王を助け、高の爵位を以て殺され

領土を江南に集まった開明派と東林派という反対派との党争が続き、

では文禄・慶長(豊臣)の士族・丁酉の軍は当初快進曲の朝鮮水軍や苦戦し、秀吉

東アジア諸地域の栄華と成敗

勢力が台頭した。北方では、アルタン王家に加えて東北の女真人の間でも統合が進み、また東シナ海でも海上勢力が再編されていた。日本の戦国大名と統一政権も、そのような新興勢力の一つといえる。

このような変動に対し、明では政務に不熱心な皇帝にかわって補佐官の内閣大学士が対処にあたった。なかでも万曆帝時代初期の張居正は、検地と一条鞭法の全国的施行や官僚の統制強化を進めたが、中央集権的な改革は地方の郷紳層の反発を買い、とくに東林派による政治活動がさかんだった江南は、政府批判の中心地となった。その間、重税と天災で農村は疲弊したが、党争のため有効な手はうたれず、暴動・反乱が続発した。1644年、その一つである李自成の乱によって、明は滅亡した。

日本列島の統一と東アジア

日本における戦国の争乱と天下統合の動きは、東アジアの政治・経済・社会変動の一環でもあった。統一権力は、戦争と貿易の両面で、国際秩序への働きかけを行った。

日本では、強固な家臣団を編成し領域支配を広げた戦国大名が登場し、織田信長・豊臣秀吉が、鉄砲を取り入れ貿易港・銀山を掌握して全国制覇を進めた。統一を果たした秀吉は、倭寇を禁止する一方で、自ら海外へ進出することををはかって朝鮮出兵を行ったが、このため明との関係が決定的に悪化し、公式貿易の再開が困難になった。

豊臣氏にかわって政権をにぎった徳川家康は、認可を与えた朱印船を台湾・マカオや東南アジアに渡航させて現地の中国商人と交易させた。貿易拠点の港市には居留地ができ、東南アジアでは日本町が、九州では唐人町が栄えた。日本との貿易は利益が大きかったため、マカオのポルトガル人や台湾に拠点を築いたオランダ人なども参入し、中国・ベトナム・インド産の生糸と日本の銀・銅が取り引きされた。

15世紀の東・東南アジア

- ・明の海禁政策により中継貿易が発展。
- ・拠点の琉球とマラッカが繁栄。

中継貿易の拠点となった琉球とマラッカの共通項に気づけます。

教科書 p.124-125 参照

16世紀の東・東南アジア

明の周辺勢力が台頭したことを貿易の視点から記述しています。女真(清)の台頭と、秀吉などの日本の戦国大名の同時代の動きに共通の土台があったことがわかります。

日本の動きについて、小見出しを立てています。世界史の中の日本の動きや役割がよりわかります。

17世紀の東・東南アジア

- ・17世紀の危機により貿易の縮小。
- ・日本は「鎖国」で国内生産を高め、東南アジア島嶼部は打撃を受け植民地化される。

貿易で栄えた日本とマラッカのその後が、対比してわかります。

教科書 p.135-136 参照

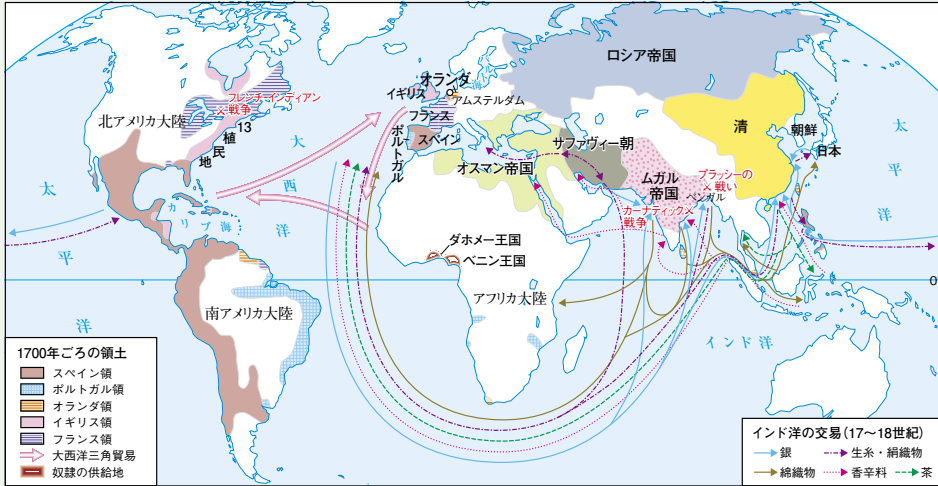
経済を軸に同時代のつながりがわかる記述

通史本文で示された世界史の事象を、世界規模の視点で記述する「一体化する世界」を設置しています。アジアの視点をより重視し、世界システムの中の日本の位置づけもわかります。

教科書 p.180-181

17~18世紀

17世紀の危機を
が読み取れます。
ジア・東南アジアは



①17~18世紀の世界

①17~18世紀 「17世紀の危機」と諸地域の発展

●「17世紀の危機」とオランダの繁栄

17世紀半ばから世界の多くの地域で、経済不振や人口増加の停止、物価の下落が明らかになった。大航海時代に発展した遠距離貿易も一時的に停滞した。地球全体の寒冷化も影響したといわれるこの現象は「17世紀の危機」とよばれる。

拡大が止まったことで西ヨーロッパでは、有力国どうして、貿易の利益を奪い合う抗争が生じた。そのなかでオランダは、優れた造船技術を活かしてバルト海貿易を支配した。バルト海に面する東ヨーロッパからは、穀物や造船資材を安価に入手できたので、オランダの造船業、海運業はヨーロッパで最も発展するようになった。それをもとに蓄えた資金によって、銀行などの金融制度も整った。アムステルダムは国際商業・金融の中心として情報の集積地となり、オランダはヨーロッパにできた資本主義的な世界システム(「近代世界システム」)の覇権国家となった。そして、その経済力を背景に自由貿易を唱え、海上交通の自由(公海自由の原則)を訴えて、国際法の整備をもリードした。

●ヨーロッパの覇権争いと大西洋三角貿易

しかし賃金や生活水準が上昇すると、オランダの製造業はしだいに競争力を失い、とくに毛織物工業などではイギリスに追い越された。オランダの国力が衰えると、かわってイギリスとフランスが勢力を

伸ばし、植民地と世界商業の支配権をめぐる17世紀末から1世紀以上にわたる覇権争いを繰り広げた(第2次英仏百年戦争)。とくにイギリスは大西洋三角貿易を通じて、アメリカ大陸とカリブ海の開発を進め、大きな利益を得た。

奴隷貿易は、以前からポルトガル人がさかに行っていたが、イギリスもまた、西アフリカで奴隷を購入し、カリブ海に運んで現地のプランテーションや鉱山の生産物と奴隷とを交換した。

南北アメリカ大陸やカリブ海では、ヨーロッパから移住した白人が先住民や奴隷を使って、プランテーションや鉱山を経営した。アフリカは奴隷貿易によって重要な労働力を失い、深刻な影響を受けた。

第2次英仏百年戦争は、ヨーロッパ諸国の紛争と連動し、植民地でも大規模な戦争を多く引き起こした。その頂点は七年戦争(1756-63年)であった。この戦争でイギリスは北アメリカとインドという東西の二大植民地でフランスに対して優位を確立し、重商主義帝国を完成させた。一方、敗れたフランスでは財政難が深刻化し、革命の遠因となった。

七年戦争の財政負担は、戦争にかかわったすべての国に及んだ。戦勝国のイギリスでも、負担を植民地に負わせようとしたため、北米の13植民地で独立運動が起こった。植民地に定住した白人の独立運動は、のちにラテンアメリカにも広がり、現地生ま



②18世紀の廣州 清朝下でのヨーロッパ諸国は、東アフリカで取り引きを行っていた。

社会をみる 「国際法」の誕生

海運や貿易で繁栄を築いたオランダに航行できることは重要であつた。にいずれかの国の支配が及ぶのかがなかった。オランダのプロテスタント(1713年)で、海洋はどの国の支配も受けずと主張して、オランダの東アジア貿易にこれに対して、オランダと貿易するスなどから反論が出され、論争となつた。領海と公海を区別するといった近代国際法を制定するにあたり、オランダの

れの白人(クリオーリョ)が運動した。

●ヨーロッパの再拡大とその影響

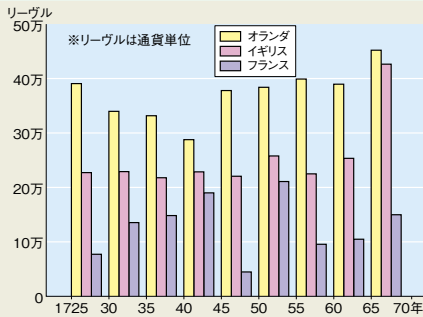
七年戦争をきっかけとして、ヨーロッパ世界への拡大を始めた(1763年)。東南アジア島嶼部、オスマン帝国などの地域は、それぞれ異なる発展をとげていたが、ヨーロッパの拡大につれ、既存の産業が破壊され、利益を失うように経済構造をゆがめられた。インドでは、イギリス東インド会社による支配をうけたりした。インドでは、イギリス東インド会社による支配をうけたりした。インドでは、イギリス東インド会社による支配をうけたりした。

●東アジア・東南アジア大陸部

東アジアや東南アジア大陸部は、七年戦争の結果、ヨーロッパとの結びつきが深まり、多くの国で外交・貿易と出入国管理などの政策が強化され、社会が近代化の道を歩み、中国の一族による

②特設 「一体化する世界」

通じて、ヨーロッパとアジアで、それぞれ対照的な経済発展が始まったこと
具体的にはオランダ、ついでイギリスは武力を伴った海外貿易により、東ア
国内の相互扶助の強化により、それぞれ発展したことが記述されています。



▲③各国の東インド会社のヨーロッパにおける販売額

主とオランダ

ンダにとって、船舶が海を自
たが、17世紀以前には、海上
どうかは、まだ明確なルール
スは、『海洋自由論』(1609
ず、自由に貿易活動ができる
貿易を擁護した(→p.163)。
や漁業で競合していたイギリ
なるが、この論争によって、
式的な海洋法の基礎が築かれ
法的な取り決めから、戦争
条法が整備されていく。



▲④グロティウス

●海洋自由論

第5章 …海洋もまた万人共
有のものである。…海洋は取
引の対象にはなりえない、つ
まりなんびとによっても所有
されえないものの一つである。
…

第13章 …東アジア貿易は
自由であるということに要求
するのである以上、…われわ
れが当然(自然によって)持つ
ているこの自由を、すべての
手段を用いて維持しなければ
ならないということである。
(櫻田美津夫 訳)

の中心となった。
—p.193

置

ヨーロッパは再び非
た。南アジア(イン
マン帝国、イラン、
固有の文明をもって
人々との関係が深ま
れ、ヨーロッパに有
れたり、政治的な支
ムガル帝国が弱体化
の植民地化が始まり、
—p.217
に対し軍事的な劣勢
でヨーロッパの側で
を通じて「文明とし
ようになった。

の発展と行きつまり
では、「17世紀の危
びつきが弱まった。
の統制や、通貨管理
—p.131
安定に向かった。日
る相互扶助、それに

中国や東南アジア大陸部では大規模な移民も、社会
変動のショックを和らげた。

18世紀のこの地域では、ヨーロッパのような産
業革命や資本主義経済は実現しなかったが、高度な
農業や手工業、それに中国人(華僑)のネットワーク
や日本の市場経済など、多くの面で独自の発展がみ
られた。とくに、日本・中国などでは先進地域にお
いて、安価な労働力を多く用いる一方で資源は節約
しながら、生産性を伸ばし富を蓄積することに成功
し、それが19世紀末からのアジア内貿易の発展を
—p.221
経て、20世紀後半の驚異的な経済成長につながった。
資源を大量消費しながら労働力を節約する産業革命
(Industrial Revolution)とは対照的なこの発展を、
勤勉革命(Industrious Revolution)とよぶことが
ある。ただし、人口増加を上回る生産性の上昇が起
こらず、生産量は増えたが富が蓄積しない地域も出
現した。格差が広がれば下層の人々の生存が難しく
なるため、貧しいなかで平等性を重んじる「貧困の
共有」が進んだ。それは、20世紀の中国・北朝鮮や
ベトナムでの社会主義革命の基盤となった。
—p.240, 291

◀p.154 p.198▶

ヨーロッパとは対照的な
発展をしたアジア地域

一体化する世界 181

全10か所掲載

つなげて読むと、一つのストーリーとして世界史
の全体像を把握できます。

諸地域の事象の相互作用や世界規模の現象を、
前近代は「ネットワーク論」、近世以降は「世界
システム論」で展開しています。

ネット ワーク 論で 展開	1～2世紀 本格化する東西交流	59
	8～12世紀 イスラーム=ネットワークの 形成と海の道の活性化	91-92
	13～14世紀 ユーラシア大交流圏の 成立と危機	118
世界 シス テム 論で 展開	16世紀 「世界の一体化」の始まり	154-155
	17～18世紀 「17世紀の危機」と 諸地域の発展	180-181
	19世紀 イギリスの覇権と世界システム	198
	19世紀後半～20世紀初頭 イギリスの覇権の衰退と アメリカ・ドイツの覇権争い	245
	20世紀前半 二つの世界大戦と 資本主義の変容	286
	20世紀後半 アメリカの覇権とその変容	311
	現代 グローバル化のゆくえ	325

教科書 p.122-123

1章

アジア諸地域の栄華と成熟

要点をおさえる ダイジェスト文

各小見出しに設置。内容のポイント
を端的にまとめています。

➡詳しくは本資料p.12へ

因果関係の わかりやすい本文

因果関係や歴史の大きな流れに留意し
て記述されているため、事象間のつな
がりスムーズに理解できます。(教科書本文緑マーカー・**囲み部分**など)

詳細を理解できる 側注

歴史の大きな流れを本文で記述する
ため、細かな事項は側注で扱って
います。(教科書本文、側注の赤マ
ーカー一部分など)

➡詳しくは本資料p.13へ



▲①**朱元璋** 貧農出身で紅巾の乱に参加し、
勝ちぬいて皇帝になった。気品に富む左側と
凝り深そうな右側の、正反対の風貌で描かれ
た2枚の肖像画が残されている。

▶②**15世紀の東アジア** 北方に退いたモン
ゴルは依然として強大であり、明は東北に進出
するとともに、東方・南方の朝鮮・日本・琉
球や東南アジア諸国などと外交関係を結んで
対抗しようとした。



節 のポイント

14~17世紀にかけて、
明の国際秩序の成立と解体
を軸に、東アジアと東南ア
ジアが経済の結びつきを強
めていった。

❶**白蓮教** 仏教系の宗教結社で、
弥勒仏が救世主としてこの世に
現れるという信仰をもつ。歴代
王朝によって禁じられたが、民
間で勢力をのぼし、しばしば反
乱にかかわった(→p.222)。

❷**一帝一元の制の始まり** 明以
降、皇帝一代に一元号となり、洪
武帝・永楽帝など元号で皇帝を
通称するようになった(→p.70)。

❸**民戸と軍戸** 民衆は職業別の
戸籍によって区別された。衛所
に属した人々は軍戸とされ、そ
れ以外の人々は民戸として
税と労役を負担した。

❹**モンゴルの性格をもつ里甲
制・衛所制** 里甲制は10戸で1
甲、10甲と10里長戸の110戸
で1里とし、また衛所制は112
戸で百戸所、10百戸所で千戸所、
5千戸所で1衛とする組織であ
る。いずれもモンゴルの千戸制
(→p.113)をモデルにしたもの
であった。

1 明の国際秩序と東・東南アジア

明の成立とユーラシア東方

江南を基盤に成立した明は、皇帝独裁制を確立し強固な国内支
外的には、北方に撤退したモンゴルと長城を境界として南北で

14世紀に続発した災害・疫病は、東アジアの社会

とえ、各地で政府の支配がゆるいだ。大元ウルス(

蓮教徒が起こした**紅巾の乱**が拡大し、乱の指導者の

璋(太祖、**洪武帝**)が、1368年に金陵(現南京)を都

大元ウルスの朝廷は明軍に大都を奪われてモンゴル

明は江南からおこって中国内地を統一した初めての

洪武帝は、さまざまな人々と価値観が共存したモ

変して、**儒教**を重んじ小農民が基盤となった社会に

制を築こうとし、**官僚・地主・大商人**に対しても、

も、**厳しい統制**を行った。中央では、**中書省**とその

廃止し、**六部**などの中央官庁や地方官を皇帝に直属

した。官僚登用にあたっては、秩序を重んじる**朱子**

衆に対しても6か条の教訓(六諭)を發布して教化を

は、土地と農民を**魚鱗図冊**(土地台帳)と**賦役黃冊**(

登録して把握し、**里甲制**をいって徴税や治安維持に

としては、**衛所制**を編制して防衛・運輸などを担わ

武帝は息子たちを全国に王として配置するなどモン

取り入れており、明初の体制は、モンゴルを継承す

農村社会に基盤をおく側面の両面をもっていた。

誌面を構成する独自の3要素

簡潔に通史を進める際はダイジェスト文と本文を、入試に向けて詳しく進める際は側注を含めて授業展開を、用途に合わせて活用できます。



▲③北京の紫禁城 明・清代の皇帝の宮殿である。現存の建物は清代に再建されたもので、現在は故宮博物院となっている。



▲④万里の長城 明が万里の長城を防衛線とした結果、モンゴルの遊牧世界と中国の農耕世界とが分離された。長城以北ではしだいに言語・文化・生活様式の共通性が高まり、それまで多種多様な人々の集団であったモンゴルが「民族」としてまとまっていくようになった。

洪武帝の没後、息子の一人燕王は2代皇帝建文帝の諸王抑圧策に対抗して、1399年に靖難の役を起こし、南京を攻め落として即位した(永楽帝)。彼は自分の本拠地であった北京へ遷都し、積極的な対外政策を展開した。北方では自らモンゴル遠征を繰り返し、また黒竜江(アムール川)方面に進出して女真人を従えた。南方では、ベトナムへ出兵して一時占領し、さらにムスリムの宦官鄭和の船団を東南アジア・インド洋に派遣した。船団の一部はアラビア半島や東アフリカにまで達し、一時的に多くの南海諸国が朝貢した。

モンゴルでは、14世紀末にクビライ家の直系が断絶してほかのチンギス家の王族が大ハーン位をついだが、その力は弱く、西方のオイラト部が実権をにぎった。なかでもエセンは大ハーンをしのぐ力をもち、1449年には明軍を破って正統帝をとらえた(土木の変)。守勢にたつようになった明は、長城を堅固に修築して、これを事実上の境界とするようになった。

明の海禁＝朝貢体制とアジア海域

明は朝貢・冊封関係と海禁を結合させた厳しい対外関係管理体制をし、沿海部の治安回復をはかった。日本もこの秩序を受け入れ、朝貢貿易に踏み切った。

宋・元代には海上貿易が発展し、東シナ海を取り巻く各地で寧波・博多などの港市が栄えた。14世紀に動乱が広がり、日本で鎌倉幕府の力が衰えると、交易の担い手であった海商・武士団など自立的な地方勢力が独自の行動をとるようになり、海上や沿岸での襲撃・略奪行為が活発となった。彼らは倭寇(前期倭寇)とよばれ、朝鮮半島・中国の武装勢力や沿岸住民も合流して、諸国の政府を苦しめた。

明が成立すると、洪武帝は倭寇を力で抑え込む方針をとり、沿海部の治安維持のために民間の海上貿易を禁止し(海禁)、対外関係を国家間の朝貢・冊封関係に限定するという、厳しい対外関係管理体制をした(海禁＝朝貢体制)。これにより、明と貿易するには朝貢・冊封を受け入れなければならなくなったため、長い間朝貢を避けていた日本

⑤オイラトとモンゴル オイラト部は、モンゴル西部のチンギス家ではない首長が統率する遊牧部族の連合である。これに対し、チンギス家王族をいただく東方のモンゴル諸部族は明から鞏固とよばれたが、彼ら自身は大元を名のり続けた。

⑥陸の対外関係管理体制 厳しい交通・交易管理は内陸でも同じで、モンゴルや女真との交易は、朝貢の形式をとらせうえ、経路・人数・回数に制限が設けられていた。このため、しばしば貿易の拡大を求める勢力との衝突が起こり、土木の変の要因にもなった。

世界史の中の日本 日本と朝貢・冊封

日本は、形式とはいえ中国皇帝の臣下になることをきらい、遣隋使・遣唐使は朝貢のみで冊封は受けず、宋・元時代は朝貢も行わなかった。明による日本国王の冊封は、実に5世紀の倭の五王以来のことである。勘合貿易とは、日本が明に行った朝貢貿易の通称で、正規の貿易船であることを確認するために、割印を押した証明書(勘合)を用いたのでこのようによばれる。

要点や流れをおさえるダイジェスト文

各小見出しのダイジェスト文では内容のポイントをまとめています。これをまとめて読むことで、歴史の大きな流れと全体像をつかめます。

教科書 p.13-19

1部1章 ▶ オリент世界と地中海世界の形成 を例に

オリент・地中海地域の風土と人々

教科書 p.13

乾燥した気候のオリент世界では、大河流域に農耕を基盤とする大きな国々が生まれた。一方、地中海世界では、海上交易を重視する小さな国々が生まれた。

メソポタミア文明

教科書 p.14

メソポタミアでは、二つの河川流域に大規模な灌漑農業を基盤とする都市国家が成立した。開放的な地形から、異民族がさかんに侵入し、国の成立と滅亡が繰り返された。

エジプト文明

教科書 p.15

エジプトではナイル川の氾濫を利用した農耕を基盤とする国家が成立した。海と砂漠に囲まれた地形から、異民族の侵入が少なく、統一王国が長く続いた。

東地中海沿岸のセム系諸民族

教科書 p.16

東地中海沿岸地方は、オリент世界と地中海世界の結び目であることから、おもにセム系のさまざまな民族が交流し活躍の場を広げていった。

アッシリアによるオリентの統一

教科書 p.18

アッシリアは強大な軍事力によってオリент世界を統一したが、その過酷な統治は諸民族の反乱を招き、まもなく滅亡した。その後は、四つの王国が分立した。

アケメネス朝ペルシアによるオリентの再統一

教科書 p.19

ペルシアがオリент世界を再統一した。アッシリアの統治を継承しながらも、寛容で柔軟な施策を行ったため、長く大国の地位を保った。

こんなシーンで活用できます

- ・ 予習で学習内容の大きな流れを把握したいとき
- ・ 復習でどのような内容だったかを思い出したいとき
- ・ 受験前の総復習として
- ・ 論述問題対策時の、事象をまとめた文章の良例として

● オリент世界と地中海世界の風土の違いが端的に示されています。

● メソポタミア文明とエジプト文明の特性を一言にまとめています。両者の風土の特質が国家の成立と興亡にどう影響したかを、**対比して**とらえられます。

● アッシリアとアケメネス朝の統治の違いを端的に比較できます。

● 各地域の事項が複雑で混同しやすいオリентの単元について、整理し、理解しやすくなります。

ほかにも

歴史の全体像を大観できる「部の概観」

部単位で歴史を大観できる**部の概観**を設置しています。各部の学習に入る前に、広い範囲の歴史をイメージできます。(→教科書p.8-9, 120-121, 230-231)

詳細を理解できる側注

より詳しい内容や細かな事項について記述しています。大きな流れをつかむための本文と役割を別にするので、知識を整理しながら補えます。

こんなシーンで活用できます

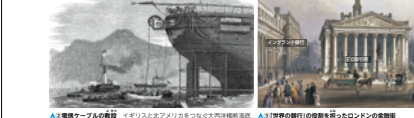
- ・学習内容についてより詳しく知りたいとき
- ・世界史での受験に必要な、細かな知識を補うとき

教科書 p.234-235



大衆生産が可能になり、安価な大量向け新車が各所で販売された。こうしたマスメディアの登場と同様に、初等教育の義務化が進み識字率が上がったことで、マストコミュニケーションで統一な世論が形成された大衆社会が生まれた。

労働運動と社会主義運動の広がり
 19世紀後半、大衆社会の発生と共に、第2次産業革命と併せて大衆による工業化の進歩が労働者増加、賃金の低止まりによって、彼らは労働環境としての自己を改めて求めた。労働者を基盤とする社会主義勢力が伸び、1864年にロンドンで労働者の団体の国際組織である第1インターナショナル(労働者同盟)が結成された。この組織はパリコミュンヌを支持するなど活発な活動を行ったが、マルクス主義者や社会主義者の対立によって分裂・解散した。
 1873年には欧米の工場労働者不景期に入り労働者の生活が悪化した。労働運動・社会主義運動に抵抗し続けた。ドイツ社会主義労働者党(1875年結成、1890年にドイツ社会主義党へ改称)をはじめ、各国で社会主義政党や労働者連合体が結成された。こうして、国際的な連帯組織である第2インターナショナルが結成された。
 労働運動の前面に直面した各国政府は、ある程度の社会福祉政策を実施するようになった。これは労働運動の成果だったが、一方で労働者を分断させる一因となった。各党が選んで社会主義の異なるドイツやフランス・オーストリアに対して、19世紀末以降、議会を通じて社会を改造することで社会主義の実現を模索する勢力が現れたのである。また社会主義の発展は国際国家への労働者の関心を喚起、のちの第一次世界大戦にもつながるようになった。



A: 電灯の普及による夜の生活の変化。B: 労働者の団体の発展を示すロンドンの労働者クラブ。C: アメリカの労働者によるストライキの様子。

「労働主義の時代」と世界への波及
 1873年から不景期に入った欧米先進工業国(列強)では、過剰な生産力と資本をもてあました資本家が、商品の販路と資本の投下先を海外に求める傾向が強まった。資本家にとっては、労働主義や社会主義運動を抑制する目的もあって、ラッシュアラムを奨励し、国民の関心を賃金の高止まりの側面から海外へ向かわせることが重要だった。労働者の側では、賃金を引き上げる海外への移住も必要と見做された。労働者の充てがいが可能になる。という期待が膨らんだ。こうして列強は、1870年代半ば以降、本國と植民地の連携を強め、新たに植民地を得るために、武力を併用するようになった。この現象を**新植民地主義**といひ、科学技術の進歩・電報・電話の普及が植民地獲得に有利になったこと、欧米露位下の世界の一体化が進んだ。
1873年の大不況とイギリスの動向
 1873年から1875年にかけての世界的な不景期は、ラッシュアラムの崩壊やイギリスの労働者によるストライキの増加が原因とされている。
 1870年代、アメリカ合衆国とドイツで工業化が進んだこと、またはイギリス(「世界の工場」)ではなかった。イギリスは、英独輸出により、海運業・保険業に加えて、世界各地へ投資することで利益を得るようになり、「世界の銀行」というふうにも呼ばれるようになった。
 このころ列強の競争は不景期に入り、とくに1873年に始まった不景期は、イギリスに深刻な影響を与えた。「大恐慌」とも呼ばれている。この不景期も、ドイツやフランス・オーストリアの労働者連帯は、第2次産業革命の進展で自国の産業を保護し、それによって工業化を止らぬという。またドイツやアメリカは、このころ、イギリスが確立した繊維産業などの軽工業ではなかった。欧米露の中心は工業革命主体とする第2次産業革命を成功させつつあった。イギリスは、この動

無政府主義(アナーキズム)

すべての権力と強制を拒否し、個人の自由がしばられることのない社会を実現しようとする主張。先駆者にブルードンがいる(→p.202)。またロシアのパルサーは、第1インターナショナルに加盟しマルクスと対立した。

修正主義と社会民主主義

マルクス主義者は、革命ではなく議会(選挙)による社会主義実現を唱える勢力を「修正主義」とよんで批判した。その後、議会を通じて漸進的に社会主義に到達しようとする主張は「社会民主主義」とよばれ、革命を主張するマルクス主義と区別されるようになった。

国際的連帯運動

19世紀半ばから、国際的連帯を追求する組織が、労働者の国際組織のほかにも結成され始めた。クリミア戦争(→p.204)におけるイギリス人のナイチンゲールの看護活動に感銘を受け、さらにイタリア統一戦争(→p.206)の惨状に衝撃を受けたスイス人のデュナンによって、人道・中立の立場から戦争被害者の救済にあたる赤十字運動が開始され、1863年に赤十字国際委員会が設立された。

側注の3つのおもな分類

用語の補足解説

十分な解説のもと、用語を補足しています。

本文を発展させた内容の解説

本文をより発展させ、知っていると歴史への理解がより進む内容を紹介します。

本筋とは別の方向へ展開させた事項の解説

のちの時代のできごとやサイドストーリーなど、歴史学習をより豊かにする事項を解説しています。

4「世界の銀行」の役割

産業革命によって「世界の工場」とよばれるほど製造工業がさかんになったイギリスは、まもなく工業製品の輸出から、外国の政府や企業への融資(資本輸出)の収益にたよるようになった。このため、ロスチャイルドなどの銀行や保険会社が集中するロンドンのシティが、世界経済の中心になった。

5第2次産業革命とイギリス

石炭と鉄をベースとし、のちの時代からみれば、比較的小規模な繊維産業など産業革命(第1次)を達成したイギリスは、社会のしくみや技術の体系などが大規模で、大量生産を行う自動車産業などの新しい分野にすばやく対応できなかった(→p.232)。

すべての側注にタイトルが付いており、何の解説か、端的にわかります。

当時の潮流や重要概念を理解できる「キーワード」

学習者がわかりにくい抽象的な概念を、丁寧に解説しています。歴史の流れの中での位置づけも解説し、歴史の大きな動きの理解を助けます。(全32か所)

キーワード一覧

人種・語族・民族	12	イスラーム	78	帝国主義	234
文化と文明	12	世界システム論とは	155	列強	235
世界帝国	19	主権国家	161	パン=イスラーム主義	252
ギリシア・ローマの市民	21	重商主義	161	民族自決	257
共和政と民主政	27	資本・資本家	184	債務国 債権国 借款	271
正統・異端・異教	34	ブルジョワジー	187	大衆社会	272
港市	45	国民国家	192	ファシズム	275
中華	50	ナショナリズム	192	中間層	275
皇帝	51	自由主義思想	195	全体主義	278
冊封と朝貢	54	社会主義	202	グローバリゼーション	321
遊牧国家	56	直轄領と保護領・保護国	220		

Key Word 主権国家

主権とは、国家が内外のいかなる勢力からも干渉されずに、法律などを制定し、政治を行う権限のこと。そのような権限を確立し、かつ自国の領域をもつ国が主権国家である。国内の貴族勢力からも、ローマ教皇や神聖ローマ皇帝のような国家より上位の権威からも介入を認めないことが原則となっている国をさす。

16~18世紀に成立した主権国家では、議会や国民ではなく、王権神授説(→p.166)などによって、国王がこの主権をにぎってしまうことが多く、そうした政治体制は絶対王政とよばれる。

「主権国家」の定義を説明する際は、具体的な現れ方を、教皇・皇帝権や「絶対王政」との関係性を含めて解説しています。

Key Word 帝国主義

正確に意味をとらえづらい「帝国主義」について定義する際は、広義と狭義に分けて説明し、19~20世紀の諸事件との関係を整理しています。

狭義には、1870年代半ばから1914年の第一次世界大戦にいたる、列強間の植民地獲得競争期を「帝国主義の時代」とよぶ。当面の採算性を無視してアフリカ奥地や太平洋上の島までもが占有された背景には、ナショナリズムによる競争心に加えて、資源が埋蔵されているかもしれないという期待があった。

広義には、特定の時代や帝政であるなしにかかわらず、国家の領土的拡大や植民地支配を意味する。植民地が地球上からほとんど姿を消す1960年代以降も、アメリカ合衆国など大国による、武力行使ないし武力の威嚇を伴う外国への内政干渉が、帝国主義とよばれる場合がある。

地域インデックス

扱う地域が一目でわかるよう、各ページに設けています。一つのインデックスをたどると、その地域を通史的にみられます。

- 中央アジア
- 東アジア
- 日本
- 東南アジア
- 西アジア
- ヨーロッパ
- アメリカ
- アフリカ

この地域インデックスは、本書の各ページに設けられています。一つのインデックスをたどると、その地域を通史的にみられます。

本書の地域インデックスは、本書の各ページに設けられています。一つのインデックスをたどると、その地域を通史的にみられます。

空間認識を深められるワイドな地図

各諸地域世界の冒頭に、風土地図を設置しています。世界史を学習するうえで必要な、風土に関する理解や空間認識を深められます。

教科書 p.38

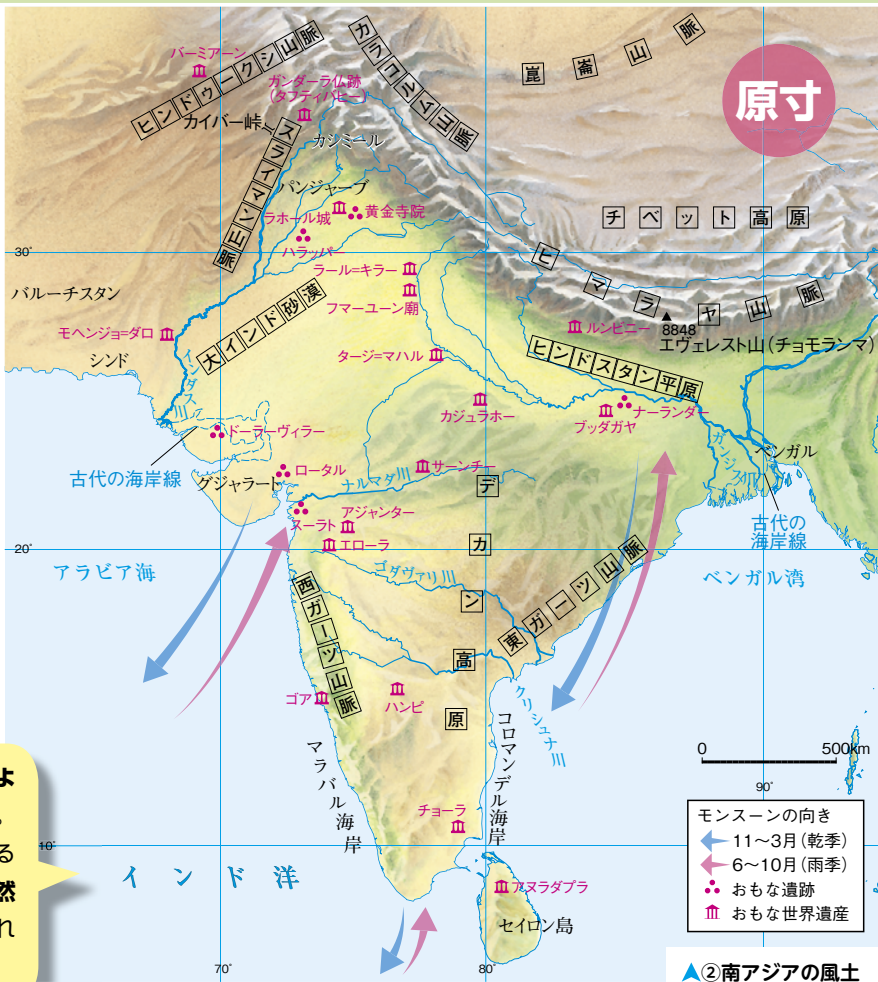
3章

南アジア世界の形成



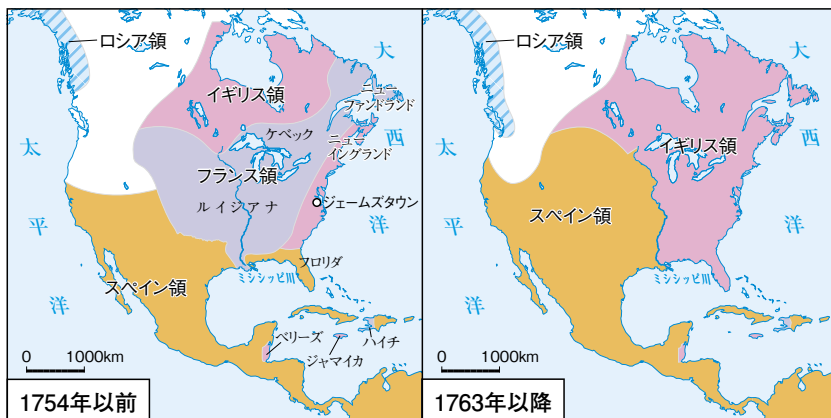
▲①ガンジス川で沐浴する人々 沐浴はヒンドゥー教の重要な儀礼の一つ。あらゆる罪やけがれを洗い流す力をもつとされる、聖なるガンジス川で沐浴することを、ヒンドゥー教徒は最高の願望とする。

風土地図では、地形や植生がよみとりやすい表現にしています。海流や風向きなども掲載しているため、地域の文化を形成する自然条件について視覚的にとらえられます。



教科書 p.178 ②

各ページの地図も大きくみやすくし、本文掲載の地名がすぐ確認できます。同じ地域の地図はほぼ同縮尺・同じ図取りで比較ができます。



多様な見方を養えるコラム・特設

世界史の中の日本 世界史上の視点から、日本と世界のかかわりや日本の役割がわかるコラムです。

世界史の中の日本 アジア物産の国産化と日本経済

絹や生糸、砂糖などのアジア物産は日本でも大きな需要があったが、「鎖国」政策によって海外へ出られなくなると、輸入にたよらなければならなくなった。そこで17世紀半ば以降、できるだけ輸入品を買わずに済むよう、日本の各地で国産化の努力を重ねられた。主要輸入品だった生糸と絹織物は、まず絹織物生産が、高度な技術を誇る京都の西陣を中心に発達した。材料の生糸は当初輸入にたよっていたが、18世紀には北関東など各地で高級生糸が生産されるようになり、幕末開港後に主力輸出品(→p.228)となるまでに成長した。また長崎貿易で大量に輸入された砂糖も、琉球・奄美で黒砂糖、四国では白砂糖の生産がさかんになり、19世紀には自給できるようになった。これらの物産や年貢米が集荷されて売買・換金された大坂は、経済の中心として栄えた。



▲⑤大坂堂島の米市場 経済の基準が米だったので、年貢米が売買・換金される大坂は、世界有数の金融市場となった。18世紀には、世界初の先物取引が行われた。

全19か所	室町時代の日朝関係	124	日本の識字率	175	
	東南アジアの日本人	128	更紗	217	
南アジアの宗教文化と日本への波及	41	長崎と広州の繁栄	131	幕末日本人の海外体験	226
アジアの「国風文化」の時代	75	アジア物産の国産化と日本経済	135	南米に渡った日本人移民	238
武人政権の時代	76	海外で取り引きされた日本人奴隷	150	日露戦争の反響	249
大元ウルスと日本	116	慶長遣欧使節	160	エルトゥール号事件	253
日本と朝貢・冊封	123	江戸期の日本とロシアの接触	173	高度経済成長からバブル経済へ	307

視点をかえて さまざまな立場の視点を紹介し、一つの事象にも複数の考え方があることがわかるコラムです。

視点をかえて 植民地研究の諸潮流：収奪論と近代化論

第二次世界大戦後の歴史学では、宗主国による植民地の搾取を強調する収奪論が主流だった。しかし1980年代に入ると、韓国や台湾などの経済発展(→p.307)を受けて、その発展の一因を植民地時代に求める植民地近代化論が現れた。それによれば、宗主国資本による工業化の開始、学校・職場における先住民の規律化と技能習得、さらに徴税制度の整備などが、独立後に近代社会が成立する基盤になったという。一方の収奪論者は、これらの施策は搾取の手段だったと反論し、近代化論は植民地主義の正当化につながると主張した。学問の発展には論争が重要である。実際、両者間の論争を通じて、例えば植民地時代の朝鮮半島で建設された鉄道設備の多くは、朝鮮戦争(→p.292)時に破壊されたため経済発展にほとんど貢献しなかったことなど、新たな知見が得られるようになった。



▶②日本の統治下に建設されたソウル駅旧駅舎

全24か所

ペルシアからみたペルシア戦争	19	先住民にとっての「明白な天命」	209
女性と奴隷にとっての民主政	23	曾國藩の苦心	224
後世に残るローマ理念	33	甲申政変と日本の脱亜論	227
ローマからみたキリスト教	34	植民地研究の諸潮流：収奪論と近代化論	244
唐からみた遣唐使	69	梁啓超のアメリカ紀行	248
「蹴り、コランか」というイスマームの誤り	81	パレスチナからみたユダヤ人移住	264
イギリスとは	99	魯迅のみた中国社会	267
中世ヨーロッパで迫害された人々	104	アンベードカルと社会改革	269
モンゴルの大征服の実像	115	女性の社会進出と選挙権運動	272
日本と朝鮮の自他認識	135	資本主義が勝利したのか？	313
アジアからみた「大航海時代」	147	ジェンダー(社会的性差)を越えて	324
ラス・カサスがみたラテンアメリカ	151		
奴隷貿易と荒廃するアフリカ	179		

①コラム

コラムでは、政治史の学習だけでは見えてこない、当時のようすや世界観がわかり、今後の社会のあり方を考える際の視野も広がります。

社会をみる 当時の社会の様相から、学習する時代の世界観がわかるコラムです。

社会をみる 魔女とされた人々

17世紀には、宗教改革後の宗派対立や経済状態の悪化により、社会不安が広がった。この時期、ヨーロッパ各地やアメリカ植民地で、特定の人々を「魔女」として告発し、迷信や偏見にもとづく裁判によって、処刑したりする魔女狩り(魔女裁判)が猛威をふるった。犠牲者には女性が多かったが、男性も含まれた。中世の異端審問でも魔女狩りは行われたが(→p.110)、犠牲者の数は16~17世紀の方が多かった。宗教対立による緊張や、凶作や疫病のもたらす不安などに対して、それらの原因を「魔女」に押しつけようとした、一種の集団ヒステリー的な現象とも考えられている。そのため、犠牲者の大半は、日ごろから共同体にうとまれていた弱者であった。



▲③魔女狩りの様子(16世紀, ドイツ)

● 魔女裁判での被告に関する質問(1640年, ライツツィヒ)

被告は5年前に原告に魔法をかけ、原告に悪いことがらをもたらさなかったか。被告はどのように魔法を使ったのか、そのためにどんな手段と呪文を用いたのか。

被告は、誰もいないのに、あたかも誰かがいるように大きな声で話していなかったか。その時、被告は誰と話していたのか、被告に愛人(契約した悪魔)はいなかったか。

全36か所	インドの伝統にのっとった ヒन्दゥー寺院の破壊 88	国民意識と文化遺産 ~ブランデンブルク門 192
ローマの家族のありかたの変化 29	民衆十字軍・少年十字軍 105	市民社会と性別役割分担の定着 196
古代末期に心の支えとなったキリスト教 33	女性が動かしたモンゴル帝国 115	中央ユーラシア世界の周縁化 216
ヴァルナ制 40	近世の中国社会 127	寡婦に関する「悪習」をめぐる確執 218
秦漢帝国の遺産 53	転生とグライ=ラマ 129	朝鮮と清朝との関係 227
遊牧民の相続法 57	オスマン帝国内のキリスト教徒・ユダヤ教徒 141	儒教批判と自由恋愛 266
チベットの地理と文化 61	周辺に組み込まれた地域の低開発 155	差別が差別を生むアメリカ社会 272
儒教・仏教・道教と中国社会 67	魔女とされた人々 165	たばこと禁煙の歴史 278
朝鮮半島の対外関係 68	生活革命 ~コーヒーハウスの文化 175	カウンターカルチャー(対抗文化) 303
中国史上唯一の女帝・則天武后 69	財政革命と財政軍事国家 178	オリンピックと経済発展 308
シャリーアとイスラーム社会の家族 80	「国際法」の誕生とオランダ 181	南アフリカの「アパルトヘイト」の起源 316
シーア派とスンナ派の歴史 82	工業化で変わる社会 184	イスラーム銀行の登場 319
		地域紛争と難民 320

地域を結びつけるもの 世界的に流通した商品から、世界史のダイナミックな動きがわかるコラムです。

地域を結びつけるもの 南アジア世界と軍馬

南アジアでは古代には戦車、10世紀には騎馬軍と古くから軍馬を利用していたが、その比重が急速に高まったのはトルコ系イスラーム勢力が侵入するころからである。デカン高原や南インドにまでイスラーム勢力が進軍する14世紀には、南アジア全域で軍馬の需要が飛躍的に高まった。しかし、南アジアは気温が高くモンスーン気候(→p.38)のため草原がほとんどなく、大型馬の飼育には適していなかった。そのため、イスラーム諸王朝もヴィジャヤナガル王国などのヒन्दゥー諸王朝も西アジア・中央アジアから陸路・海路を通して軍馬を輸入し続けた。この状況は火器の導入とともに軍馬の需要が落ちていく18世紀後半まで続いた。

全13か所

鉄の役割	15
レバノン杉	17
富と権力の象徴 絹	58
製紙法の伝播	83
イスラーム世界での砂糖の普及	89
遠隔地商業と金融業の発展	102
紙幣の流通と海を渡る銅銭	117
南アジア世界と軍馬	144
二つの世界を結びつけたチューリップ	212
新しい綿花地帯	215
アジア内貿易の発展	221
日常工業品の普及と生活の変化	234
石油による国際カルテルの成功	304

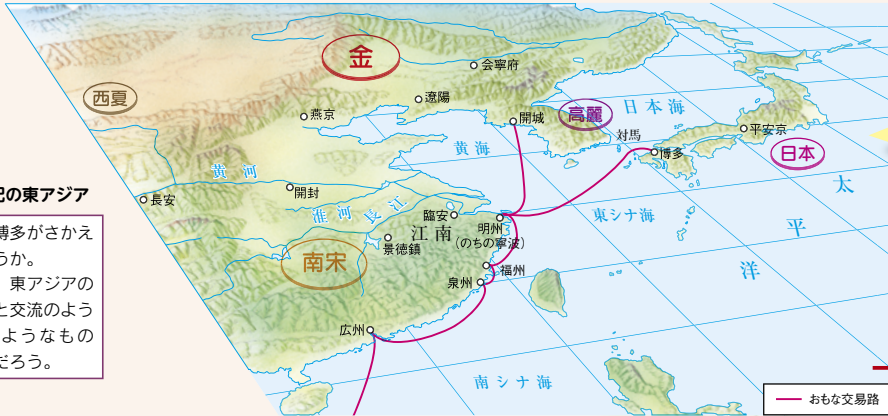
世界史への扉

日本の歴史と世界の歴史のつながり①

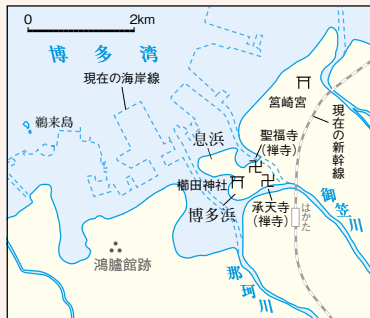
「官から民へ」の日宋貿易 ～博多と寧波の繁栄

①12世紀の東アジア

どうして博多がさかえたのだろうか。この時期、東アジアの政治状況と交流のようすはどのようなものだったのだろう。



遣唐使廃止後の日本と中国の民間貿易を取り扱っています。政治史のみでは見えてこない、大陸とのさかんな経済と文化の交流史をみられます。



②博多のようす(12世紀ごろ)

7世紀以来続いた遣唐使は、838年を最後に再び送られることはなかったが、これは日本と中国大陸との交流がとだえたことを意味するわけではない。9世紀以降、江南地方を中心に民間の海上貿易商(海商)の活動が活発になり、日本にさかんに来航して中国産品をもたらした。中国海商から買いつける絹織物や工芸品、陶磁器などは、舶来品として「唐物」とよばれて日本の上流階級の間で珍重され、また大量に輸入された宋銭は、日本で通貨として流通した。中国海商は貿易に従事するだけでなく政府間の書簡を伝達したり、日本の留学僧を便乗させたりもした。遣唐使が送られなくなったのは、国が使節を派遣しなくても、中国の文物や情報が海商を通じてつねに手に入るようになったからである。日本の対中交流は、遣唐使時代の国営事業から日宋間の民間貿易に移行したといえよう。

また、華北の長安をめざした遣唐使が制度導入を



③大量に出土した白磁(左)と④器の底に書かれた中国海商名(右) 博多の貿易施設や海商の居留地の遺跡からは、大量の中国産陶磁器が発掘されており、博多に居住した中国海商の名前が記されたものも多数見つかった。重くてこわやすい陶磁器は船舶での大量輸送に適した商品であり、日宋貿易で大量に輸入されて、日本各地のさまざまな階層に広まった。



主眼としていたのに対し、貿易中心のこの時代には、交流の窓口となった江南地方から優雅な生活文化がもたらされた。その中心となったのが、江南の明州(明代に寧波と改名)と九州の博多である。遣唐使時代に国際港として政府の宿泊・貿易施設がおかれた博多は、この時代になると、宋の海商が進出して拠点をおき、日本の海外貿易の中心地として繁栄した。これに対し明州は、日本・高麗との間の東シナ海貿易の中心港として市舶司がおかれ、南シナ海貿易の泉州・広州と並ぶ三大貿易港として栄えた。

民間貿易を通じた交流はさかんで、博多には中国海商によっていくつもの禅寺が開かれ、明州産の石材で石塔や石像がつくられた。他方、森林資源の枯渇が進んでいた江南では、日本から輸出された木材で仏寺が建てられた。国際貿易都市としての博多の繁栄は、元寇や明の海禁にもかかわらず、江戸幕府による海外貿易の長崎への集約まで続いた。

全ページに地料などを掲載し、のようすや当時について理解を深め

世界史への掲載ページ

- 自然環境と人類
- ①気候変動と歴
- ②自然災害と人
- 日本の歴史と世界
- ①「官から民へ」～博多と寧波
- ②世界をめぐる
- ③毛皮が動かす日常生活にみる世界に伝播した～コロンブス

②特設 「世界史への扉」

自然環境・日本とのつながり・日常生活から世界史をみる特設「世界史への扉」を設置しています。近年の研究成果にもとづく、世界史の知的な面白さを発見できるページです。

教科書 p.138

世界史への扉

日本の歴史と世界の歴史のつながり③

毛皮が動かす世界の歴史



図・グラフ・表
をしています。交流
の社会状況につ
られます。

●毛皮へのあこがれと「毛皮の道」

古来、毛皮は防寒のためだけでなく、その美しさや入手の難しさから、高級衣料品として世界中で権力者や富裕層に愛好された。なかでも黒貂の毛皮は最高級品として最も珍重された。また、白いオジジョの毛皮を集めてつくるマントは権力の象徴とされ、クビライヤルイ14世もまとっている。

毛皮獣の生息するシベリアなど北方の寒冷地帯では、狩猟・牧畜民が分散して集落をつくり、国家が形成されることはなかったが、彼らが獲る毛皮は、重要な交易品として遠く中国や西ヨーロッパまでもたらされた。「草原の道」の北側に広がる森林地帯は、ユーラシアをつなぐ「毛皮の道」であった。

●清・ロシアの拡大と毛皮

毛皮のもたらす利益は、国家の形成や拡大もうながした。15世紀後半以降、明や朝鮮で毛皮が流行するようになると、女真人による毛皮の中継貿易がさ

かんになった。貿易の利益をめぐる争いを制覇したヌルハチは、毛皮貿易を手中におさめた。清は満洲の住民に毛皮の貢納を課し、かわりに官職や絹織物を与えた。この絹織物は、交易品としてアイヌの手を経て日本に渡り、「蝦夷錦」とよばれて珍重された。19世紀初めに間宮林蔵が北方探検で訪れたのは、黒竜江下流域の毛皮交易所であった。

他方、ロシアもヨーロッパ向けの毛皮輸出で成長し、毛皮を求めてシベリアに進出した。ロシアはネルチンスク条約によって黒竜江流域からは排除されたが、さらに東進を続けて18世紀にはアラスカまで到達した。北アメリカはビーバーとラッコが生息しており、これに目をつけたイギリス・フランスもカナダに進出して競い合った。18世紀末に、遭難して北太平洋でロシア人に助けられた大黒屋光太夫が、サントペテルブルクまで向かったルートは、当時のロシアの「毛皮の道」をたどったものであった。

扉一覧

のかかわり	
史 巻頭Ⅲ	
類の歴史	2
の歴史のつながり	
の日本貿易	
の繁栄	77
銀	130
世界の歴史	138
世界の歴史	
産物	
の交換	152

考察し、論述する力がつく「Let's Try」

過去の入試問題の分析をふまえた論述の問題例を側注に全51か所掲載しています。因果関係や時間軸・空間軸にもとづいて、学習内容を自分の言葉でまとめて表現する力が身につきます。

教科書の数ページに渡る記述を、一つの観点からまとめる力が問われる問題です。

教科書 p.173

Let's Try

ヨーロッパにおける主権国家体制の成立と拡大をまとめてみよう。

※以下の「解答例」・「用語」・「解説」は、指導資料（教師用指導書）に掲載しています。

解答例 16世紀のイタリア戦争や宗教改革により、神聖ローマ皇帝がヨーロッパ全域を支配しようとする考えは挫折に追いこまれた。そのため、西ヨーロッパ各国が、主権国家として国際関係を構築するようになった。三十年戦争の講和会議には、ヨーロッパの多数の国々が参加し、1648年に国際条約の先駆けとなったウエストファリア条約が結ばれた。この条約によって、オランダとスイスの独立が国際的に承認されたほか、ドイツの各領邦に主権が認められ、神聖ローマ帝国の支配は有名無実化して、主権国家体制が確立した。その後、近代化を進めたロシアが、18世紀前半に北方戦争でスウェーデンに勝利して、国際関係において重要な位置を占めるようになった。(300字)

用語 イタリア戦争・宗教改革・神聖ローマ皇帝・三十年戦争・ウエストファリア条約・オランダとスイスの独立・領邦・主権・ロシア・北方戦争・スウェーデン

解説 大国・小国が入り混じり抗争を繰り広げたイタリア戦争では、複雑な同盟関係が形成された。この状況は国際社会の縮図であり、各国が他国に外交官を常駐させるなど、主権国家体制の萌芽がみられた。三十年戦争では、国際会議を経てウエストファリア条約が成立し、ドイツの各領邦には事実上の主権が認められた。西欧・中欧の諸国家による国際秩序として、これにより主権国家体制が確立した。18世紀の北方戦争では、ロシアがスウェーデンに勝利したが、この戦争中に建てられた新都ペテルブルクにも各国の外交官が置かれるなど、ヨーロッパ国際政治にロシアも加わっていった。(類似出題：早稲田大学04年、北海道大学08年、成城大学08年)

主権国家に関連する事象を扱っているのは、

- p.161「スペイン帝国の盛衰と主権国家体制」
 - …神聖ローマ皇帝による支配の挫折
 - 西ヨーロッパで主権国家の考え方に転換
- p.170「三十年戦争とドイツの混乱」
 - …国際条約の先駆けウエストファリア条約
 - 主権国家体制の確立
- p.172「ロシアの台頭と東方進出」
 - …ロシアの近代化
 - 主権国家体制への参入

論述問題への対策には、ダイジェスト文（→本資料p.12参照）も参考になります。ダイジェスト文は約60～80字で記述されているため、その小見出しの本文と照らし合わせることで、論述の基礎として100字に要約する練習ができます。

資料を分析し、思考力を養える「Skillを高める」

空間軸・時間軸の整理をしたり、絵画や文字資料を多面的・多角的に考察して読み解いたりすることで、歴史的思考力を高められます。近年の入試傾向にも合致しています。

歴史的思考力を問う問題は、今後出題が増えていくと考えられます。「資料からよみとく歴史の世界」では、文字資料のほか、絵画、風刺画、写真などの**図像資料**を取り入れています。

教科書 p.194

Skillを高める

資料からよみとく歴史の世界②

「人間および市民」とは誰か ～「フランス人権宣言」と「女性宣言」

資料① 「フランス人権宣言」

● 「人間および市民の権利の宣言 (フランス人権宣言)」 1789年8月26日

第1条 人間は自由で権利において平等なものとして生まれ、かつ生きつづける。社会的区別は共同の利益にもとづいてのみ設けることができる。

第10条 いかなる者も、その主義主張について、たとえそれが宗教的なものであっても、その表明が法によって確立された公共の秩序を乱さないものであれば、その表明を妨げられない。

第11条 思想および主義主張の自由な伝達は、人間のもっとも貴重な権利の一つである。それゆえいかなる市民も、法によって定められた場合はこの自由の濫用について責任を負うという留保つきで、自由に発言し、著作し、出版することができる。

第13条 公安の力を維持するために、また行政的支出のためには、共同の租税が必要不可欠である。それは、すべての市民のあいだでその資力に応じて平等に分担されなければならない。(田中正人訳)

資料② グージュが記した「女性宣言」

● 「女性および女性市民の権利の宣言(女性宣言)」 1791年9月

第1条 女性は、自由なものとして生まれ、かつ、権利において男性と平等なものとして存在する。…

第10条 何人も、自分の意見について、たとえそれが根源的なものであっても、不安をもたらされることがあってはならない。女性は刑罰台にのぼる権利をもつ。同時に、女性は、その意見の表明が法律の定める公の秩序を乱さない限りにおいて、演壇にのぼる権利をもたなければならない。

第11条 思想および意見の自由な伝達は、女性の最も貴重な権利の一つである。それは、この自由が、子どもと父親の^{養育}関係^{養育}を確保するからである。したがって、すべての女性市民は、法律が定める場合に、その自由の濫用に責任を負うほかは、^{野蠻な}偏見が^{真実}を^{偽ら}せることのないように、自由に、自分が^{貴方}の子の^{母親}である^と言うことができる。

第13条 公的強制力の維持および行政の支出^{支出}のための、女性と男性の租税の負担は平等である。女性は、すべて^{職役と}役務^とに^{貢献}する。したがって、女性は、(男性と)同等に、地位・雇用・負担・位階・産業に参加しなければならない。(社村みよ子監訳「オランプ・ドゥ・グージュ」信山社)

資料③ 女性の権利宣言に対する男性の意見

「女性、子ども、外国人、そして、公的施設の維持に貢献しえない者は、公的問題に能動的に影響力を行使すべきではない。」 (1789年7月21日 シュエイエス)

「あなた方は彼女の真似をする気ですか？とんでもない。あなた方は自然によって望まれた生き方をしてこそ、あなた方は価値ある存在となり、真に尊敬に値する、ということがお分かりでしょう。」 (1793年11月「公安委員会報」グージュ処刑に関する記事)



▲①オランプ・ドゥ・グージュ(1748～93)

■資料①「フランス人権宣言」のそれぞれの条文は何について言及しているのだろうか。

■「フランス人権宣言」が公布されたのちに、選挙権を得た人々は誰だっただろうか。

■資料②「女性宣言」には、『フランス人権宣言』に書かれていない、女性の権利が明記されている。その部分はどこだろうか。

■「女性宣言」は当時の人々からどのように受け止められたのだろうか。

解説 ヴェルサイユ行進など、フランス革命時の実力行使には多くの女性が参加した。革命は男女両性によって担われ、その成果の一つが選挙権であった。しかし、その権利は女性に与えられなかった。人権宣言の2年後に制定される1791年憲法は、有産成年男子のみに選挙権を認めるものになったのである。これに反発した女性活動家グージュは、男女同権を唱える『女性宣言』を記し、議会に採択を訴えた。人権宣言は正式名称を『人間(homme)および市民の権利の宣言』という。hommeには人間と男性の二重の意味があり、グージュは、「hommeの権利」を男性だけではなく人間の権利として発展させ、男女同権を唱えたのである。しかし、グージュの訴えは実現せず、1793年憲法では、無産の男子に選挙権が拡大されるとどまった。

結局、フランスで女性が選挙権を獲得するのは1944年のことである。しかし、人権宣言の歴史的意義は大きい。人類はグージュのように、人権宣言を発展させることで、人権概念を進化させていけるからである。第二次世界大戦後の1948年には、国際連合総会において世界人権宣言が採択された。そこでは次のように明言されている—「すべて人は、人種、皮膚の色、性……いかなる事由による差別をも受けることなく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる」と。女性の権利は20世紀に入り、社会進出の機会とともに保障されていったが、男女の同権に限らず、性的指向による差別がなくなったわけではない。それでも人類は、人権思想を深化させ、差別を一つずつ解決してゆけるだろう。

194 Skillを高める

Skillを高める 掲載ページ一覧

時間軸からみる諸地域世界	
暦は何のためのもの？	70
空間軸からみる諸地域世界	
文字はなぜ広まったのか？	119
資料からよみとく歴史の世界	
①17～18世紀のオランダと日本の絵画からみえる交流	176
②「人間および市民」とは誰か	194
③服装から見る日本と中国の西洋化	229
資料を活用して探究する地球世界の課題	
現代世界の課題を歴史的な視点でとらえ考察してみよう	326

サハラ以南のアフリカ世界の風土と通史を設置

世界地図(自然環境), 世界史の舞台 巻頭 I ~ II
世界史への扉 自然環境と人類のかかわり① 気候変動と歴史 ... 巻頭 III
 自然環境と人類のかかわり② 自然災害と人類の歴史... 2
 はじめに 7

1部 諸地域世界の形成と交流

8

序章 人類の出現 10

1章 オリент世界と地中海世界の形成

1 オリент世界の形成 13
 2 地中海世界の形成とオリентとの融合 20
 3 ローマと地中海世界の成長 27
 4 ローマ帝国周辺の西アジア 36

2章 サハラ砂漠以南のアフリカ 37

3章 南アジア世界の形成 38

4章 東南アジア世界の形成 44

5章 東アジア世界のあけぼの

1 中華文明の形成 47
 2 秦漢帝国と東アジア 51

6章 中央ユーラシア世界の形成と展開

1 中央ユーラシアの風土と遊牧帝国の出現 55
1~2世紀 本格化する東西交流 59
 2 古代遊牧帝国の興亡とユーラシアの変動 60

7章 東アジア世界の変動と再編

1 ユーラシアの変動と東アジア世界 63
Skillを高める 時間軸からみる諸地域世界
 暦は何のためのもの? 70
 2 東アジア諸地域の成長と自立 71
世界史への扉 日本の歴史と世界の歴史のつながり①
 「官から民へ」の日宋貿易 ~博多と寧波の繁栄 77

8章 イスラーム世界の形成と拡大

1 イスラーム文明の誕生 78
 2 イスラーム世界の拡大 84
8~12世紀 イスラーム=ネットワークの形成と海の道の活性化 ... 91

9章 ヨーロッパ世界の形成

1 地中海北方へ広がるキリスト教 93
 2 西ヨーロッパの成長と拡大 101
 3 封建社会の解体と王権の伸張 106

10章 ユーラシア大帝国の出現 113
13~14世紀 ユーラシア大交流圏の成立と危機 118
Skillを高める 空間軸からみる諸地域世界
 文字はなぜ広まったのか? 119

2部 海洋によ

1章 アジア諸地域の

1 明の国際秩序と
世界史への扉 日本
 世界をめぐる銀
 2 世界帝国清とア
世界史への扉 日本
 毛皮が動かす世
 3 イスラーム世界

2章 大規模な分業体

1 大航海時代~世
世界史への扉 日常
 世界に伝播した

16世紀「世界の一体

2 ルネサンスと宗
 3 スペインの盛衰

3章 ヨーロッパ諸国

1 17世紀の危機と
 2 東ヨーロッパ諸
Skillを高める 資料
 17~18世紀の
 3 イギリスとフラ
17~18世紀「17世紀

4章 環大西洋革命~

1 世界で最初の工
 2 アメリカの独立
 3 フランス革命と
 4 ラテンアメリカ
Skillを高める 資料
 「人間および市民

5章 イギリスの覇権

1 イギリスの覇権
19世紀 イギリスの覇
 2 ヨーロッパに広
 3 アメリカ合衆国

6章 世界の一体化の

1 イスラーム諸国
 2 南アジア・東南
 3 東アジア諸国の
Skillを高める 資料
 服装から見る日

前近代のユーラシア
 全体の動きを俯瞰
 できる章

モンゴル帝国がアジア諸地域に与えた影響を
 一連でとらえられる構成
 東・東南アジアは全体像と各国の動きを整理

...本書の
 今改訂での
 配列の変更点

...本書の
 特徴的な
 配列構成

南北アメリカ世界の
風土と前近代史も
掲載

植民地化以前の
オセアニア史も掲載

テロの頻発など、
「多極化」以降の現在
の世界について拡充

る世界の一体化

120

栄華と成熟
東・東南アジア 122
の歴史と世界の歴史のつながり② 130
アジア諸国の成熟 131
の歴史と世界の歴史のつながり③ 138
世界の歴史 138
の成熟 139

制の成立
世界の一体化の始まり 146
生活にみる世界の歴史
産物～コロンブスの交換 152

化」の始まり 154
教改革 156
とオランダの繁栄 161

の主権強化と大西洋三角貿易
西ヨーロッパ諸国の主権強化 164
国の台頭とヨーロッパ文化の成熟 171
からよみとく歴史の世界①
オランダと日本の絵画からみえる交流 176
ンスの覇権争いと大西洋三角貿易 177

の危機」と諸地域の発展 180

工業文明と国民国家の誕生
業化 182
..... 185
国民国家の誕生 187
における環大西洋革命 193
からよみとく歴史の世界②
」とは誰か 194

と欧米の国民国家建設
と自由主義 195

権と世界システム 198
がる国民国家 199
の拡大と国家統合 208

進展とアジアの変容
の変容と模索 211
アジアの植民地化と社会変容 217
模索と変容 222
からよみとく歴史の世界③
本と中国の西洋化 229

覇権国家イギリスと、後を追うヨーロッパ諸国の対照的な動きをとらえられる構成

3部 地球社会形成の模索

230

1章 世界の一体化の完成とその影響
1 帝国主義と世界分割競争 232
19世紀後半～20世紀初頭 イギリスの覇権の衰退とアメリカ・ドイツの覇権争い 245
2 アジア知識人による体制改革の試み 246

2章 世界大戦の時代
1 第一次世界大戦と社会主義革命 254
2 第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開 262
3 大衆社会の到来とファシズムの出現 271
4 第二次世界大戦とその惨禍 279
20世紀前半 二つの世界大戦と資本主義の変容 286

3章 東西冷戦から多極的国际社会へ
1 アメリカの覇権と冷戦の展開 287
2 多極化の始まり 296
3 米ソ二極時代の終焉 301
20世紀後半 アメリカの覇権とその変容 311

4章 相互依存を深める世界
1 社会主義圏の解体と国際秩序の変容 312
2 グローバル化の動きと世界の変化 321
現代 グローバル化のゆくえ 325
Skillを高める 資料を活用して探究する地球世界の課題
現代世界の課題を歴史的な視点でとらえ考察してみよう 326

さくいん 327
世界史対照表 巻末 I
世界地図(世界の国々), 世界地図(世界観)の変遷 巻末 II～III

環大西洋地域の全体像と
各国の動きをとらえやす
い構成

コラム等の設置箇所については、
以下をご覧ください。

- ・「現代につながる諸課題」 本資料p.3
- ・「世界史の中の日本」, 「視点をかえて」 本資料p.16
- ・「社会をみる」, 「地域を結びつけるもの」 本資料p.17
- ・「キーワード」 本資料p.14

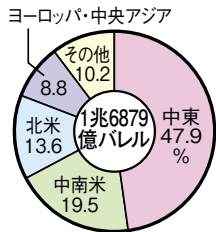
ユニバーサルデザインに対応

① カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

■ 色覚特性をもつ生徒が同じように見えてしまう色を隣どうしに配置しないことや、境界線を黒ではっきりと書くことで、グラフなどの資料を読み取りやすくしています。

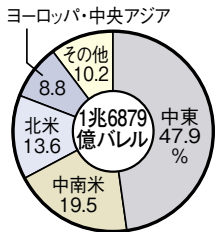
* 色覚特性のD型とP型は、特性のなかでも代表的なものです。左右の図は、それらの色覚特性をもつ人の色の見え方をシミュレーションしたものです。

カラーユニバーサルデザインに配慮した図



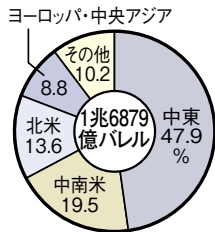
世界の石油確認可採埋蔵量(2013年)

D型色覚の人の見え方



世界の石油確認可採埋蔵量(2013年)

P型色覚の人の見え方



世界の石油確認可採埋蔵量(2013年)

② 学習が進めやすい工夫

■ 資料や図版・写真、注釈を各ページの同じ場所に配置し、見開きのレイアウトを原則統一することで、スムーズに学習を進められるようにしています。

■ 学習単元の部ごとに色を統一し、現在学習している部を一目でわかるようにしています。また、どの地域の歴史を扱っているのかを確認できるよう、地域インデックス(当資料p.14参照)も設けています。

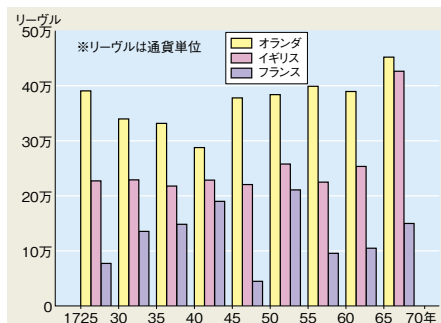
→p.122-123
地域インデックス



③ 読み取りやすい図版表現

■ 図の周囲をグレーで囲むことで、どこまでが同一の資料であるのか、わかりやすくしています。また、図の周囲を暗くすることで色のちらつきを抑え、読み取りに集中できるようにしています。

▶p.181 ③各国の東インド会社のヨーロッパにおける販売額



④ 読みやすく誤読を防ぐ文字

■ 教科書の見開きタイトル、本文、図版タイトルなどには、ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています。これにより、文章が読みやすくなり、誤読を防げるようにしています。

UDフォント

Tay Son せいざん
タイソン(西山)の反乱が全土に広がったが、
1771-1802

- ・ふりがなはゴシック体にして見やすくしています。
- ・濁点部分のすきまを充分確保して視認性を高めています。
- ・横画を太くすることで、視認性を高めています。

授業への万全のサポート

教師用指導書、指導者用デジタル教材、準拠ノートなど、世界史授業の周辺教材を充実させ、万全のサポート体制を整えております。弊社「高校教科書・副教材カタログ」および、「高等学校指導者用商品・サポート案内」に詳細情報を掲載しています。あわせてご覧ください。

サンプル

部分サンプルをご用意しています。弊社までご連絡ください。

教師用
指導書

新詳 世界史B 指導資料 DVD-ROM付

- ・本文や図版・写真の解説、板書例などを掲載予定です。
- ・パスワード認証の「webサポート」をご利用いただけます。

教材備品

指導者用デジタルコンテンツ集 世界史 (Windows版・iOS版) 学習者用デジタルコンテンツ集 世界史 (iOS版)

- ・弊社世界史資料集のデジタルデータなどを収録しています。世界全図や構造図など世界史学習に必須の図版をそろえています。

サンプル

準拠
ノート

新詳 世界史Bノート

- ・教科書本文の要点穴うめや年表・地図作業で知識の定着を万全に行えます。
- ・論述問題や入試演習問題、同時代のつながりを確認できる作業で入試対策も行えます。

サンプル

ウェブ
サイト

- ・最新の写真・資料・統計など豊富なコンテンツを収録しています。
- ⇒<http://www.teikokushoin.co.jp/>

定期冊子

世界史のしおり

- ・年3回無料でご希望の先生にお届けしています。
- ⇒ご希望の方は、弊社までご連絡ください。一部バックナンバーもご用意しています。

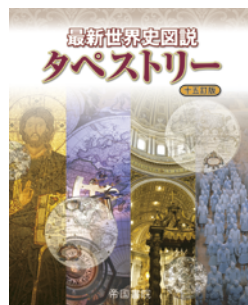
弊社 世界史の教科書・資料集のラインアップ



明解世界史A(世A-314)



新詳世界史B(世B-312)



最新世界史図説タペストリー



明解世界史図説エスカリエ

p.7 19行目 「一体化した現代世界」はどのように成立した？ ～世界史を学ぶ意味～

…16世紀ごろに西ヨーロッパを中核として成立した経済的な分業体制としての近代世界が、しだいにほかの地域世界を吸収して、地球全体の一体化が進みました。この分業体制の内部では、格差や差異がめだっていく傾向がありました。本書が、各地の固有の文化に注目しつつも、世界規模での人やもの、金・情報・文化などの動きをとくに重視しているのは、このような観点からです。…



主著：『工業化の歴史的前提 一帝国とジェントルマン』岩波書店、1983年、『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書、1996年。大阪大学名誉教授 **川北 稔**【近世ヨーロッパ史】

p.305 コラム 10行目 中東の混乱を長引かせる石油と大国の干渉 ～中東の政治体制と国際関係～

…西アジア・北アフリカでは、帝国主義時代からの民族問題や冷戦時代の東西対立などの負の遺産が精算しきれないうえに、大国の干渉も続いて、戦争が起こり続けている。先進国はエネルギー資源の安定供給のために中東諸国の急激な変化を好まず、共和政の国々での強権的な支配や、君主政の産油国での保守的な政治体制を支持し続けてきた。そのため、国内の民主化や改革が遅れた。…



主著：『イスラームを読む：クラーンと生きるムスリムたち』大修館書店、2016年、『9・11以後のイスラーム政治』岩波書店、2014年。京都大学教授 **小杉 泰**【イスラーム学・中東地域研究】

p.244 7行目 国民が広く信じた植民地の「文明化」と現実 ～植民地主義と人種主義～

…「帝国主義の時代」の植民地本国では、植民地の経済開発によって先住民の生活が向上する、という主張が国民の間に広く信じられていた。…先住民でも教育を受け文明化されたなら、本国人と同等の権利を得られると説く主張(同化主義)もあった。…高等教育を受けた先住民はいたが、植民地行政につくすことを期待されたのであり、就職や昇進では差別が残った。人種間には優劣があり、優秀人種が劣等人種を支配するのは当然である、とする人種主義がこの差別の根幹にあった。…



主著：『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年(共編著)。京都大学教授 **杉本 淑彦**【近現代フランス史】

p.181 右7行目 20世紀アジアの経済成長のルーツとは？ ～17・18世紀の東・東南アジア～

…日本・中国などでは先進地域において、安価な労働力を多く用いる一方で資源は節約しながら、生産性を伸ばし富を蓄積することに成功し、それが19世紀末からのアジア内貿易の発展を経て、20世紀後半の驚異的な経済成長につながった。資源を大量消費しながら労働力を節約する産業革命とは対照的なこの発展を、勤勉革命とよぶことがある。…



主著：『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年(共編著)。『新版 東南アジアを知る事典』平凡社、2008年(共編著)。大阪大学教授 **桃木 至朗**【東南アジア・海域アジア史】

p.160 7行目 政治のために利用された精神論 ～主権国家と宗教革命～

…成立過程にあった主権国家の多くでは、宗教改革の動きを背景に、教皇や皇帝などのヨーロッパ全体を支配しようという権威を退けて、自国内の教会をも支配下におき、国王が権力を強化していった。さらに、人々が個人として、自分の信仰と向き合うようになっていった。…



主著：『図説イギリスの歴史 [増補新版]』河出書房新社、2015年、『イギリス宗教改革の光と影 ～メアリとエリザベスの時代～』ミネルヴァ書房、2011年。神戸市外国語大学教授 **指 昭博**【近世ヨーロッパ史】

p.110 18行目 **中央集権化が安定をもたらすとは限らない** ～教皇庁の場合～

…アヴィニョン教皇庁は官僚制を整備して中央集権的な教会統治を確立し、ローマ=カトリック圏のすべての司教区の聖職叙任権を一手ににぎり、そこにさまざまな課税を行った。しかし教皇による富の収奪は、各地の聖職者をはじめ国王・諸侯から農民にいたるまで広範な反発を引き起こした。…

主著：『教会改革とナツィオ(国民) ー1418年のコンコルダートをめぐってー』
(森原隆編著『ヨーロッパ・エリート支配と政治文化』成文堂, 2010年, pp.77-92.)

早稲田大学高等学院教諭 **青野 公彦**
【中世ヨーロッパ史】



p.219 **コラム** 8行目 **「近代化」によって拡大する身分集団** ～イギリスのインド統治～

…イギリスは「カーストの自治」と称して「カースト」にかかわる問題はジャーティごとに一任したため、ジャーティ内での規制や団結が強化されるようになった。また、鉄道や通信の発達にはジャーティの広域化をあと押しした。さらに19世紀末に本格化したジャーティ単位での国勢調査などによって、「カースト」が定義・分類・規格化され、それがインド全域で受け入れられていった。…

主著：『世界歴史大系 南アジア史2』山川出版社, 2007年(共著)。『岩波講座世界歴史第6巻 南アジア世界・東南アジア世界の形成と展開』岩波書店, 1999年(共著)。

名古屋大学助教 **三田 昌彦**【インド中世史】



p.82 15行目 **民族差別を廃したイスラーム革命の求心力** ～アッバース朝の成立～

…ムハンマドの叔父アッバースの子孫(アッバース家)は、シーア派など、ウマイヤ朝に不満を抱く人々をとりまとめた革命軍によってウマイヤ朝を倒し、750年にアッバース朝を建てた。革命軍の中には、反体制派のアラブ人のほかに多数の非アラブ人改宗者が参加しており、アッバース朝ではこうした異民族出身のムスリムがめざましい社会的進出をとげた。このため、アッバース朝はイスラームの下での平等を原則とするイスラーム帝国であったといわれる。…

主著：『イスラーム史のなかの奴隷』山川出版社, 2015年。『軍事奴隷・官僚・民衆：アッバース朝解体期のイラク社会』山川出版社, 2005年。

九州大学教授 **清水 和裕**【初期イスラーム史】



p.247 27行目 **海外へ出ることでアイデンティティーはどう変わる？** ～華僑と中国ナショナリズム～

…世界的な奴隷制廃止の動きのなかで各地の労働力が不足し、とくに開発の進む東南アジアや南北アメリカ大陸は、多くの華僑を引きつけた。華僑による本国への送金も巨額になっていた。こうした勢力が新しい政治運動のうしろだてとなっていた。…華僑による海外とのつながりは、国際紛争の原因になると同時に、大規模なナショナリズム運動を展開させる結果をもたらした。…

主著：『愛国主義の創成 近代中国のナショナリズム』
岩波書店, 2003年。『清朝と近代世界』岩波新書, 2010年。

東京大学准教授 **吉澤 誠一郎**【中国近代史】

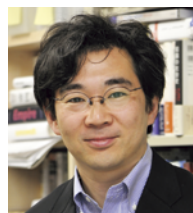


p.286 左23行目 **「大きな政府」につながった世界の一体化のリスク** ～世界恐慌と福祉国家～

…世界恐慌となった。世界システムのリスクが「顕在化」したことで、システム全体からの影響を国が調節し国家単位で経済を管理する体制が各国で模索された。…ドイツやイタリア、日本では国家が経済を管理する際に、個人の自由を抑圧するファシズムという形をとった。アメリカではニューディール政策がとられ、国家の公共投資による需要の拡大がはかられた。…各国の戦後の経済体制の遺産となり、その上に福祉国家(「大きな政府」)が構築されていくことになった。…

主著：『世界システム論で読む日本』講談社選書メチエ, 2003年。
『ウェストファリア史観を脱構築する』ナカニシヤ出版, 2016年(共編著)。

立命館大学教授 **山下 範久**【歴史社会学】



p.132 20行目 **多数派が少数派による政治を受け入れた構造とは？** ～清朝の統治～

…清皇帝は、満洲人の君主であると同時に、モンゴルの大ハーン(クハーン)の地位と明から継承した中華皇帝の地位を受け継ぐ存在であった。内陸の藩部地域に対してはチベット仏教の保護者として、また漢人および朝貢国に対しては儒教を奉じる皇帝としてのぞみ、広大な領域を統合した。統治の基本方針は、満洲人による支配を柱としながら従来の支配層・統治方式をほぼ引きつぐという現実的なものであった。…

主著：『大清帝国の形成と八旗制』名古屋大学出版会, 2015年。『東アジア海域に漕ぎだす1 海から見た歴史』東京大学出版会, 2013年(共編著)。

東京大学准教授 **杉山 清彦**【大清帝国史】



特色一覧

※本資料および下記の表データは弊社ウェブサイトにて閲覧・ダウンロードできます。

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ◆経済を軸とした因果関係がわかる本文と側注により、歴史の大枠から詳細を理解できる内容となっている。 ◆豊富な視覚資料が整理されて掲載され、学習を進めやすくなっている。 ◆特設「一体化する世界」ページやコラム「現代につながる諸課題」により、グローバル化した現代にいたる世界の成り立ちを詳細に理解することができる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆同時代のつながりがわかる記述や多様な見方を養える記述により、世界史学習が深められる。 ●本文は、因果関係や歴史の大きな流れ、地域規模のまとまりがとらえられる記述となっている。 ●経済的な視点を充実させ、同時代の地域のつながりがわかる記述となっている。 ●コラム「現代につながる諸課題」では、多様な視点から諸課題を考察することで、学習する歴史事象と現在の世界で起こっている問題の関連を知ることができ、「歴史を学ぶ意義」を感じられる内容となっている。 ●特設「一体化する世界」では、世界規模の視野で歴史を系統づけられるようになっている。 ●特設「世界史への扉」や種々のコラムでは、様々な切り口から歴史の実相に迫れるようになっている。 ●「Let's Try」では生徒が考察し記述できる力をつけられるよう、歴史的思考力を養える内容となっている。 ●特設「Skillを高める」では史料読解ができるよう、歴史的思考力を養える内容となっている。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> ◆歴史の流れがわかる本文と、知識を補う側注とで役割分担がはかられ、学習を進めやすくなっている。 ●因果関係や歴史の大きな流れがよくわかる本文と、知識を補う側注・概念理解を助けるキーワードの構成で、歴史の大枠から詳細な事項までを整理して学習できるようになっている。 ●章・節・小見出しごとにダイジェスト文を設け、歴史の流れを端的にとらえられるようになっている。 ●「部の概観」で世界史の学習内容を大観できるようになっている。 ●行政区分と植生分布の2枚の世界全図や、各地域の「風土地図」により、生徒の地理的認識をサポートし、世界史に欠かせない空間認識を十分身につけられるようになっている。
表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ◆B5判の判型を活かし、地図や図版が大きく豊富に掲載されている。 ●歴史事象の因果関係の記述が充実し、読んでわかりやすい平易な本文となっている。また、ゴシック(太字)が適切に示されている。 ●本文内容を補足する「側注」と「キーワード」が数多く設置されており、理解を助ける工夫がなされている。 ●写真やグラフ、地図などの資料が豊富に設けられており、生徒が自らの力で情報を読み取り、視覚的に理解できるようになっている。 ●カラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚に特性のある生徒にも読み取りやすい表現になっている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●写真や図版が映える、発色の良いコート紙が使用されている。 ●1年以上の使用に耐えうるよう、堅牢な製本になっている。 ●環境に配慮した再生紙と、植物油インキが使用されている。

著作者

詳細は本資料p.26-27を参照

川北 稔 (大阪大学 名誉教授)

◆近世ヨーロッパ史

小杉 泰 (京都大学 教授)

◆イスラーム学・中東地域研究

杉本 淑彦 (京都大学 教授)

◆近現代フランス史

桃木 至朗 (大阪大学 教授)

◆東南アジア・海域アジア史

指 昭博 (神戸市外国語大学 教授)

◆近世ヨーロッパ史

青野 公彦 (早稲田大学高等学院 教諭)

◆中世ヨーロッパ史

三田 昌彦 (名古屋大学 助教)

◆インド中世史

清水 和裕 (九州大学 教授)

◆初期イスラーム史

吉澤 誠一郎 (東京大学 准教授)

◆中国近代史

山下 範久 (立命館大学 教授)

◆歴史社会学

杉山 清彦 (東京大学 准教授)

◆大清帝国史



株式会社 帝国書院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29

TEL.03-3262-0831

URL <http://www.teikokushoin.co.jp/>

※本資料に掲載されている内容は、一部変更となる可能性があります。